

平成29年3月期 決算説明会

2017年5月22日

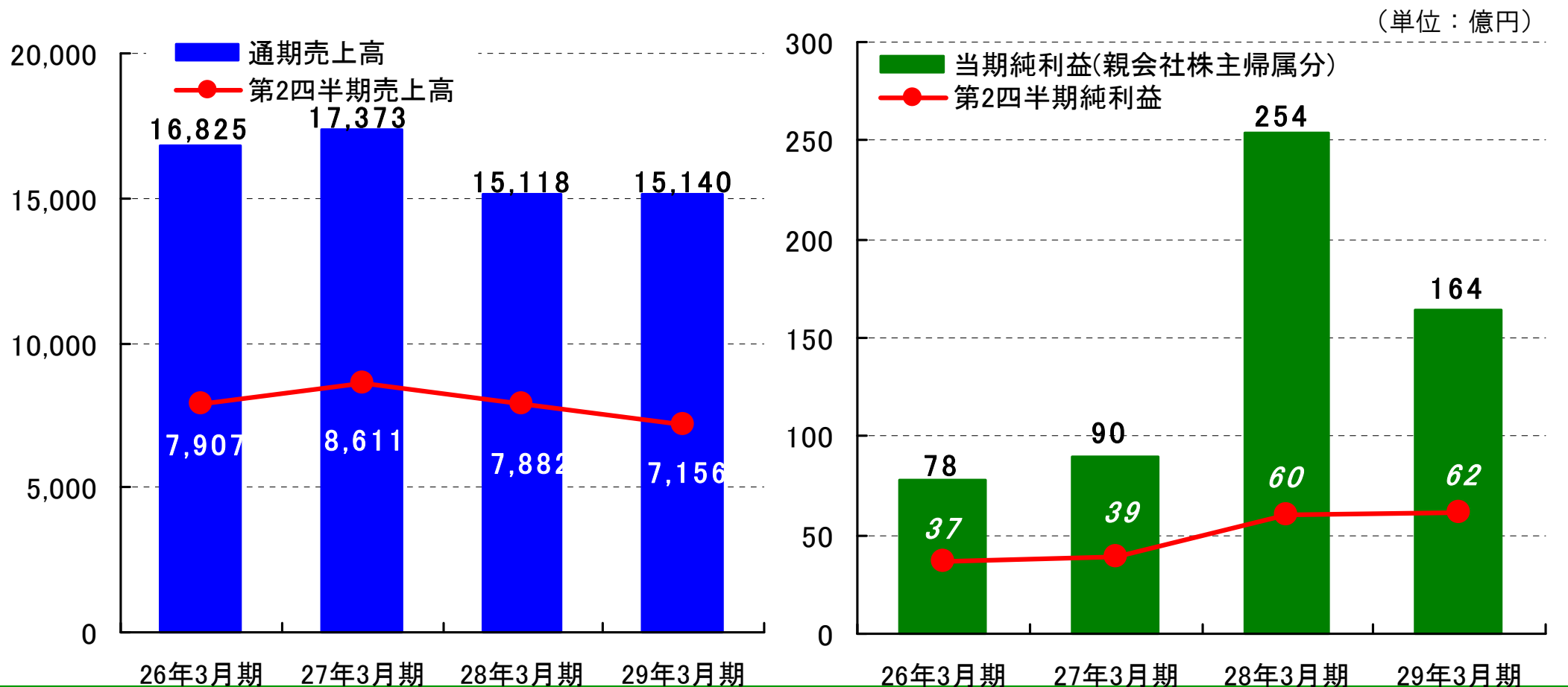
阪和興業株式会社

- ・売上高
石油製品や鋼材の価格は低水準も、合金鉄や木材の拡販により、前期比微増。
- ・販管費
前期比7%増加(内、新規連結影響2%)。人件費は約10億円の増加。
- ・経常利益
前期の持分法投資損失のような下押し要因がなく、49%の増益。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益
特別利益の減少と法人税軽減事象がなかったため、36%の減益。 (単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売上高	15,118	15,140	+0%
売上総利益	565	645	+14%
販管費	383	410	+7%
営業利益	181	234	+29%
経常利益	154	229	+49%
親会社株主に帰属する 当期純利益	254	163	△36%
一株当たり当期純利益	122.92円	80.18円	△35%
包括利益	167	209	+25%

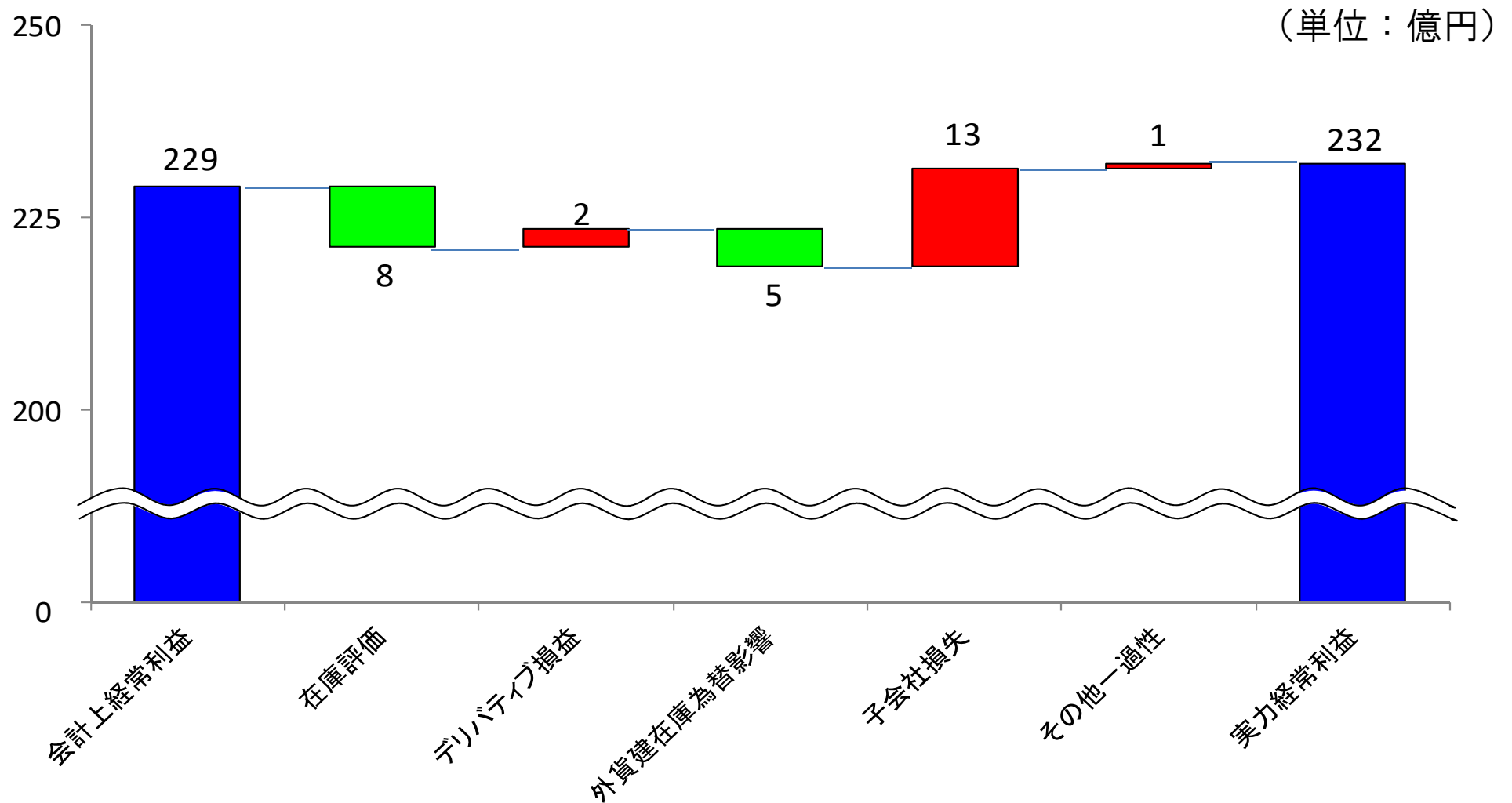
商品価格の低迷から売上高水準は低下したものの、取扱数量は概ね維持。

当期純利益は、前期に流通センターの不動産売却に伴う一過性の増益要素があり突出しているが、その影響を除けば堅調に推移。



時価会計・一過性損益の影響

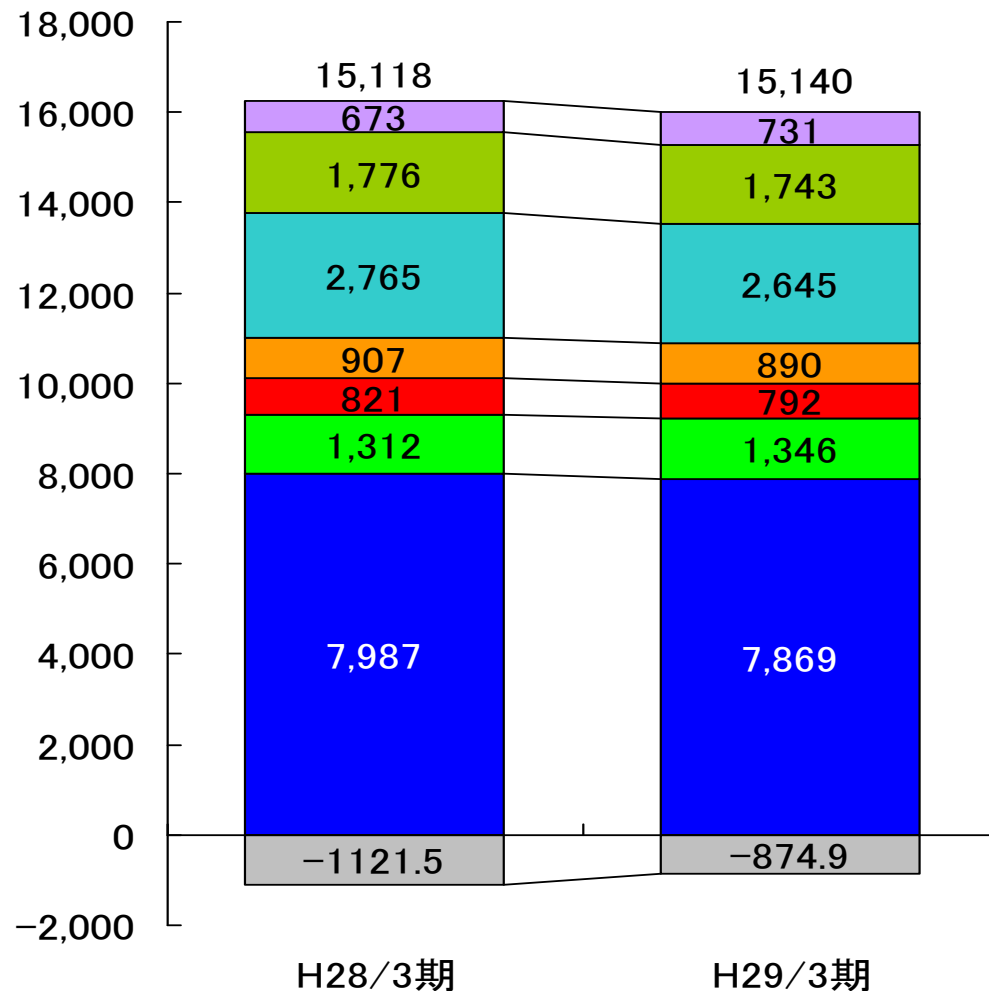
経常利益229億円に対し、在庫評価やデリバティブなど期末時価評価損益、子会社での一時的な損失など一過性の要素を除外した実カベースでは、232億円程度の経常利益を実現（前期は177億円）。



事業セグメント別の状況

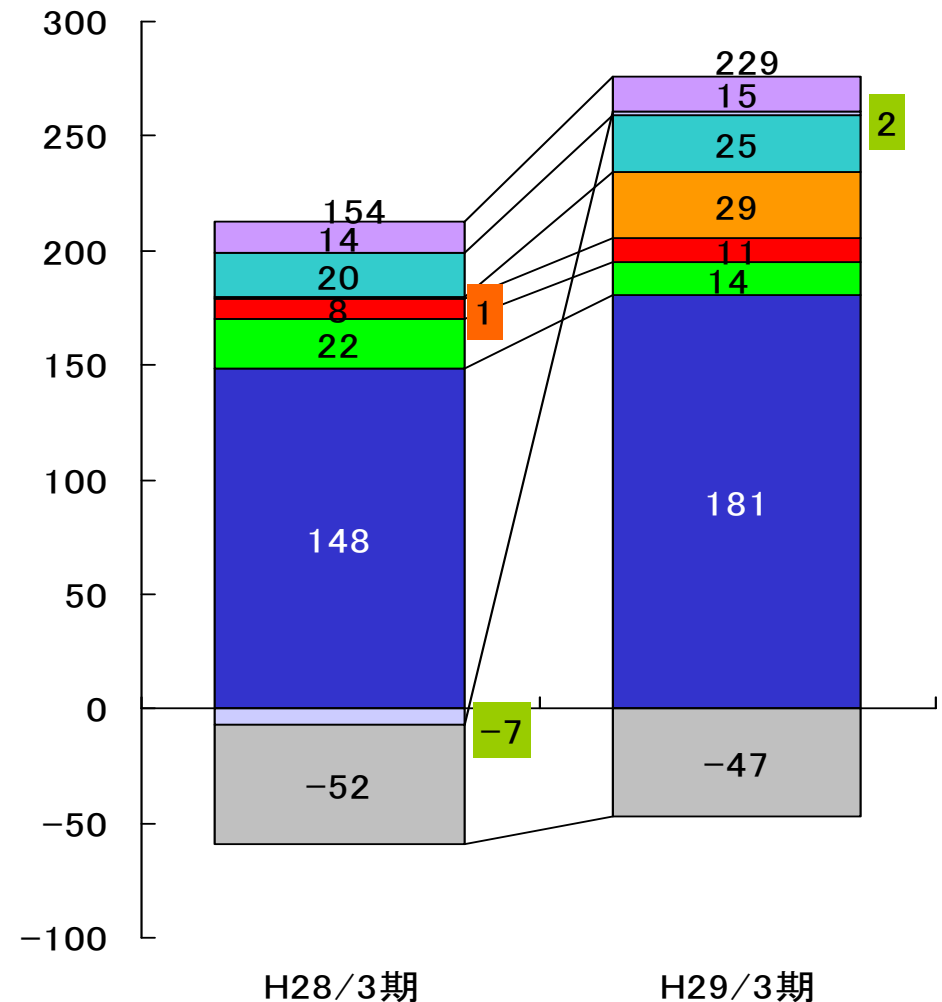
商品価格水準の低下により、金属原料セグメント以外は減収に。
利益面では、鉄鋼事業の増益や食品事業の収益性改善などにより、増益。

売上高



セグメント利益

(単位:億円)



■ 鉄鋼 ■ 金属原料 ■ 非鉄金属 ■ 食品 ■ 石油化成品 ■ 海外販売子会社 ■ その他 ■ 調整

- ・ 総資産

売上高が期中で漸増し、売上債権が増加したことなどから、前期末比16%増。

- ・ 有利子負債

売上高の漸増に伴う資金需要の増加などにより、前期末比9%増。ネットDERは1.4倍と横ばい。

- ・ 純資産

親会社株主に帰属する当期純利益からの積み上がりやその他有価証券評価差額金の増加などにより、前期末比10%増。

(単位：億円)

	前期末	当期末	前期末比
総資産	5,996	6,942	+16%
負債	4,435	5,225	+18%
有利子負債	2,375	2,596	+9%
ネットDER	1.4倍	1.4倍	△0%
純資産	1,561	1,716	+10%
自己資本	1,548	1,704	+10%
自己資本比率	25.8%	24.5%	△1.3pt
1株当たり純資産	747.40円	838.70円	+12%

連結キャッシュ・フローの状況

- ・ 営業活動 C F
事業収入の増加により、39億円の収入。
- ・ 投資活動 C F
短期貸付金の実行などにより、184億円の支出。
- ・ 財務活動 C F
短期借入金やコマーシャル・ペーパーによる調達が増加などにより、154億円の収入。

(単位：億円)

	前 期	当 期	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	530	39	△491
投資活動によるキャッシュ・フロー	△104	△184	△79
財務活動によるキャッシュ・フロー	△417	154	+571
現金及び現金同等物期末残高	258	272	+14

平成30年3月期(通期)の連結業績予想

- ・売上高予想
商品価格の上昇などを反映し、12%増を予想。
- ・利益予想
前期不振だった子会社の収益改善と鋼材価格の上昇による利益増を見込む一方で、前期まで好採算だった請負工事の利幅縮小やレジャー機械の完工減により、若干増を見込む。

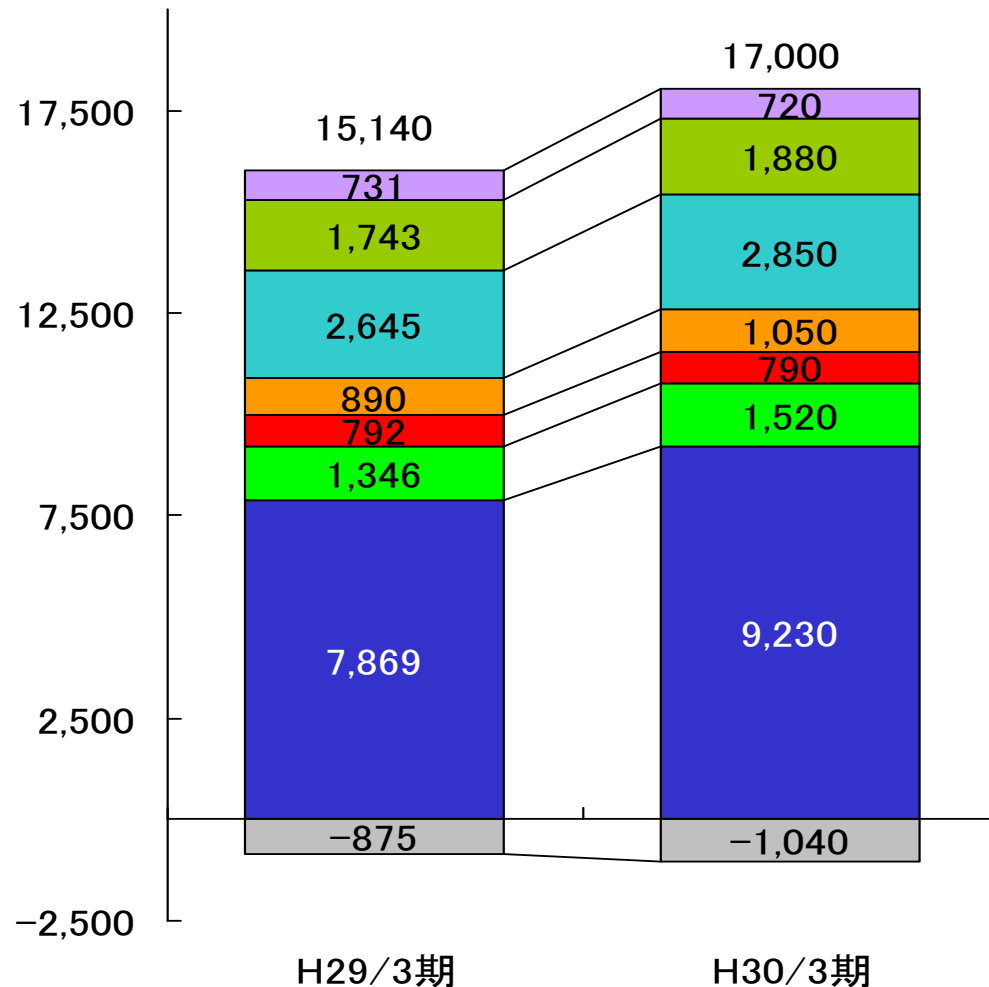
(単位：億円)

	平成29年3月期 (実績)	平成30年3月期 (予想)	増減比
売上高	15,140	17,000	+12%
営業利益	234	255	+9%
経常利益	229	240	+5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	163	160	△2%

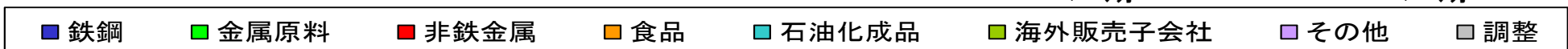
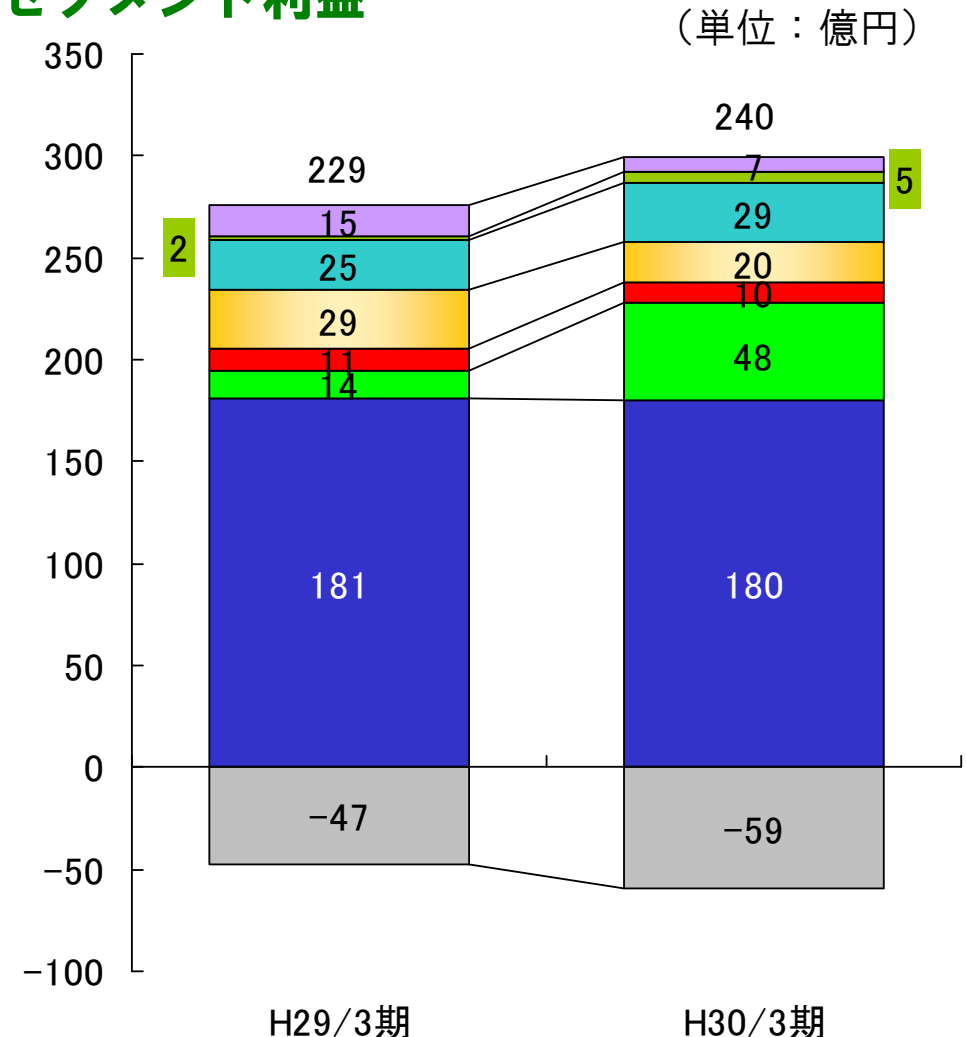
事業セグメント別予想

売上高は、価格水準の上昇等から増収を見込むセグメントが多い。
利益は、金属原料事業での子会社収益の改善と持分法投資利益の増加が見込まれる。

売上高



セグメント利益



【配当方針】

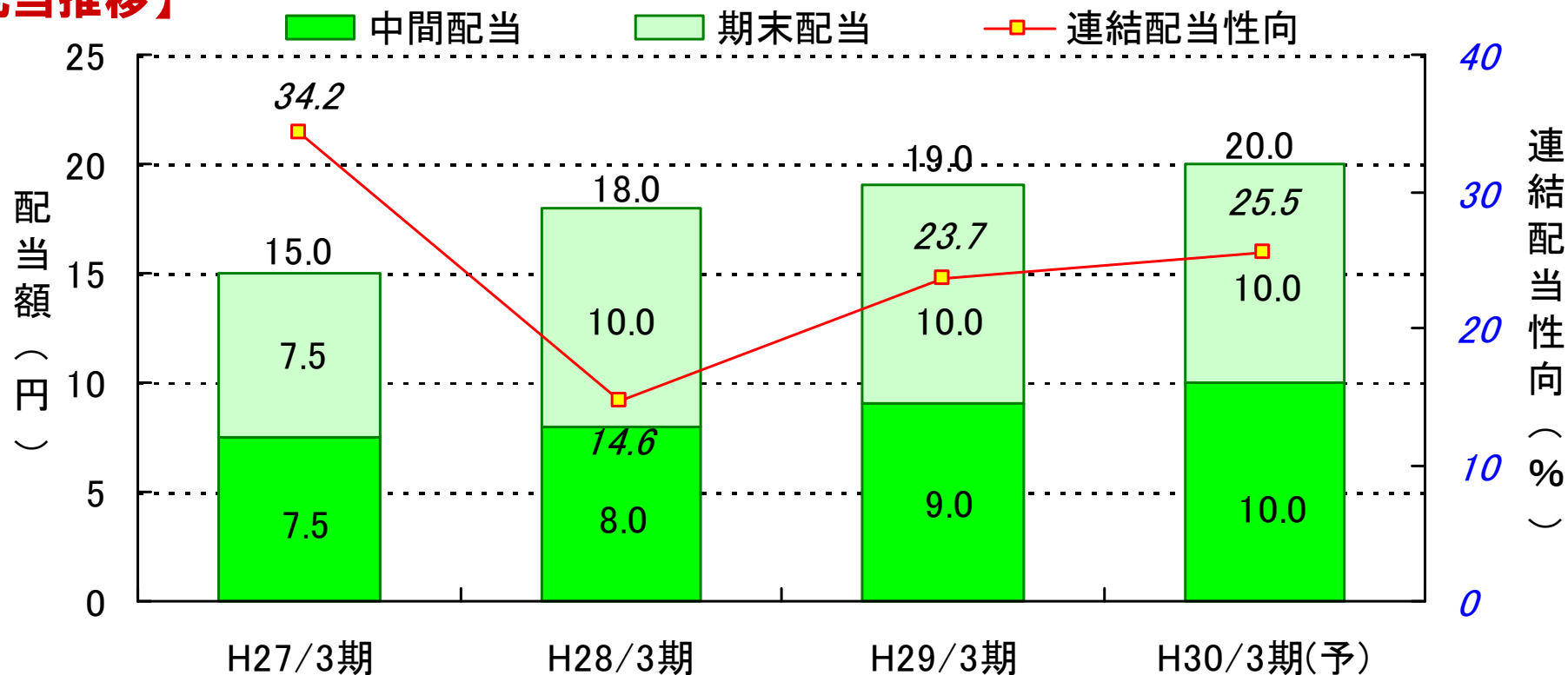
安定した配当を継続して実施することを第一義に、収益力の向上に努め、基礎的な収益水準の上昇とともに、戦略的投資からの利益回収状況に合わせて、配当額の増加を目指してまいります。

(配当予定)

H29/3期 期末配当 1株当たり10円 (予想比+1円)

H30/3期 中間配当 1株当たり10円、期末配当1株当たり10円

【配当推移】



鉄鋼事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	7,986	7,868	△2%
セグメント利益	148	180	+22%

・売上高

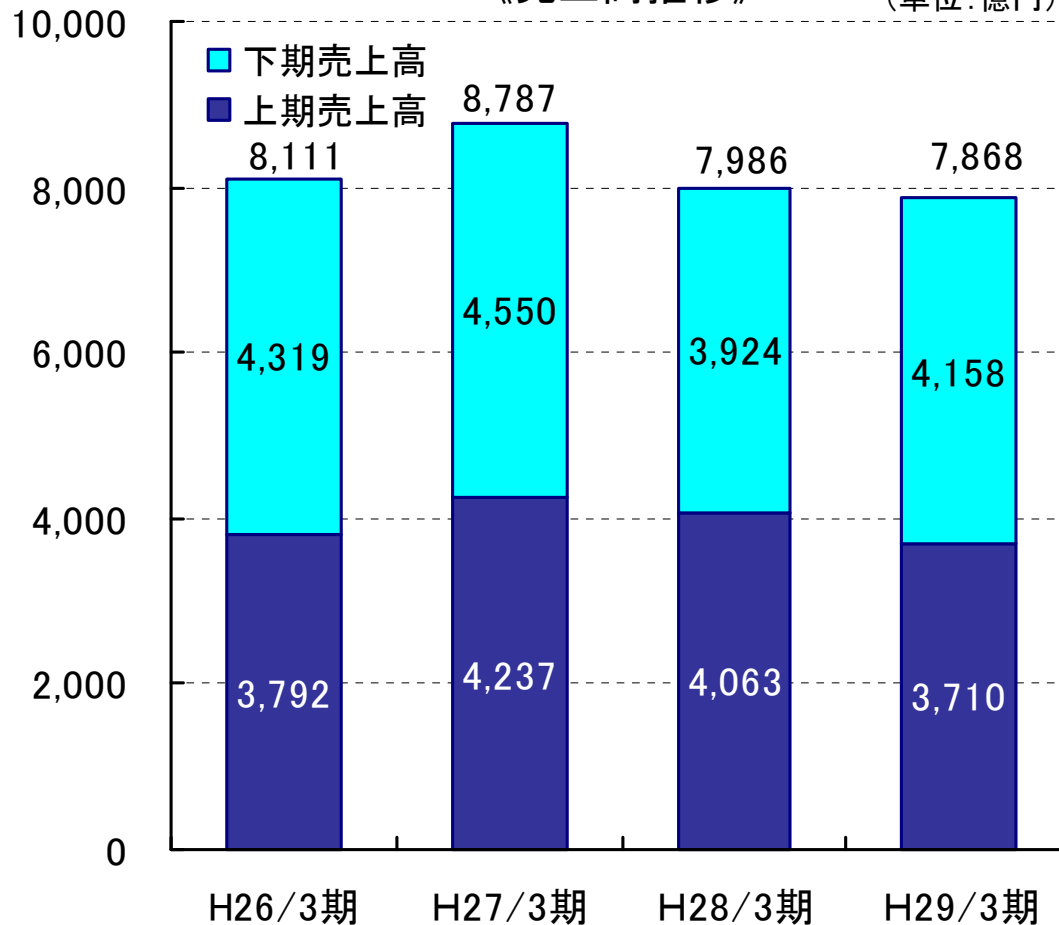
需要は堅調ながら盛り上がりには欠け、前期に下げた価格は値上げ途上で、減収。

・セグメント利益

採算の良い建設請負工事の完工や、前期のような多額の持分法投資損失がなかったことから増益。

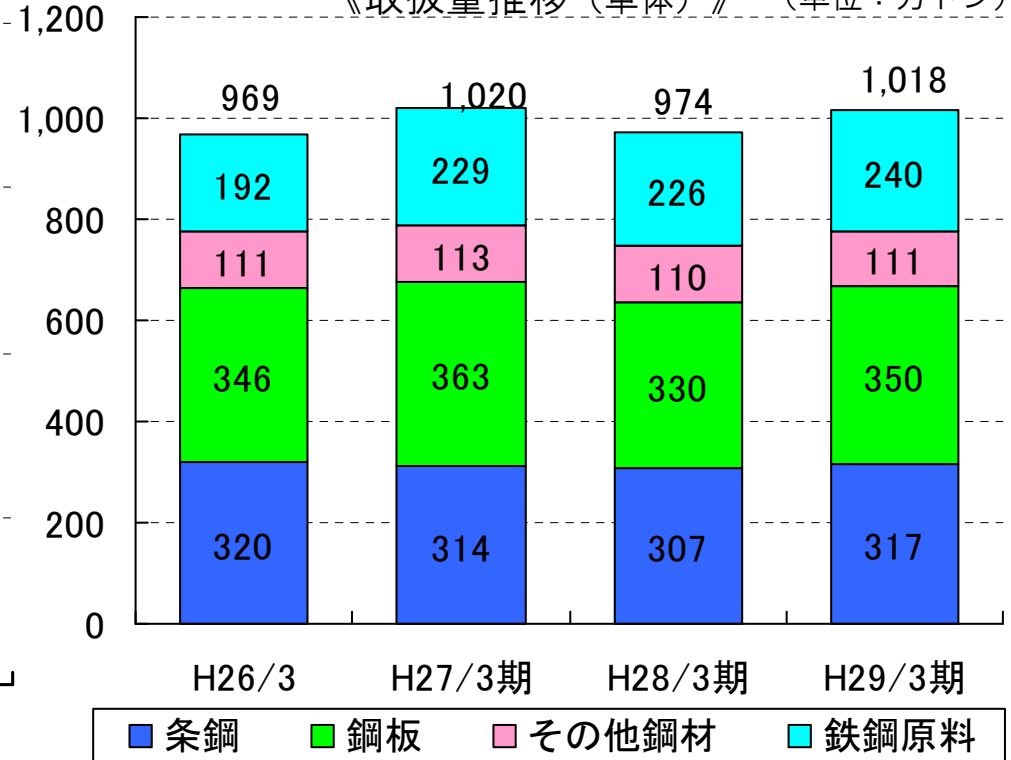
《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》

(単位：万トン)



金属原料事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	1,311	1,346	+3%
セグメント利益	22	14	△36%

・売上高

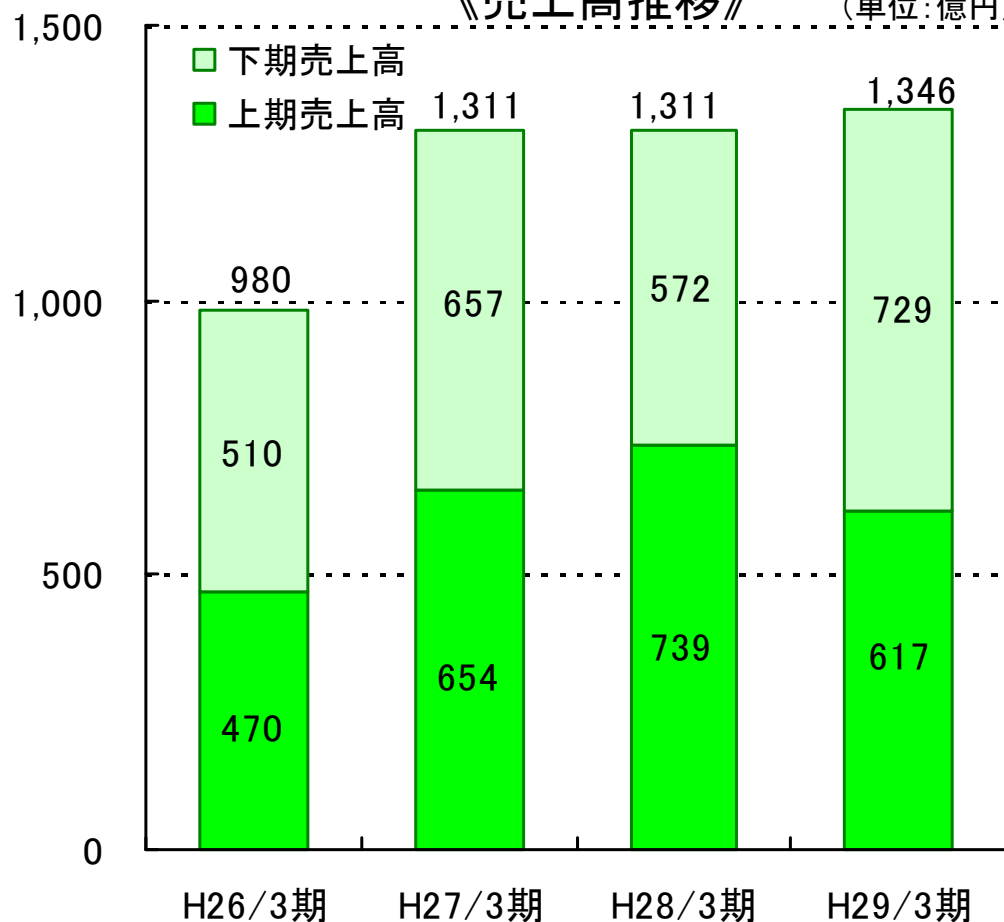
市況は停滞したものの、フェロクロムやニッケル化合物の拡販などにより増収。

・セグメント利益

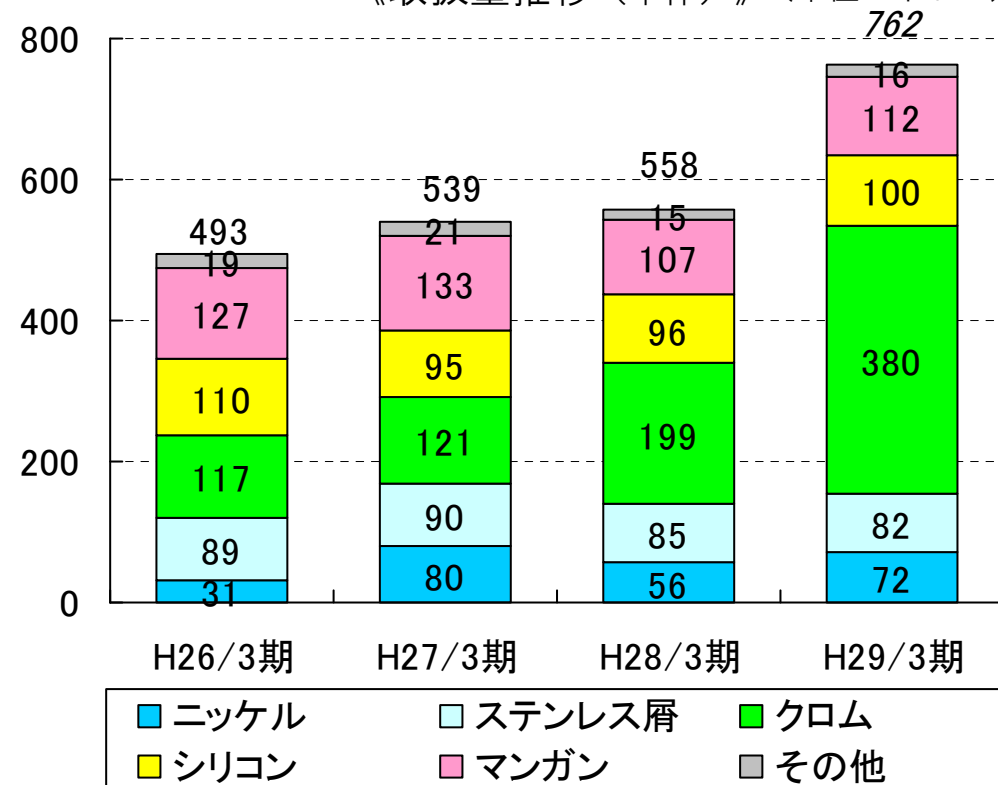
為替差損の発生や昭和メタルの長期在庫処分等により減益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》 (単位：千トン)



非鉄金属事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	820	792	△4%
セグメント利益	8	10	+28%

・売上高

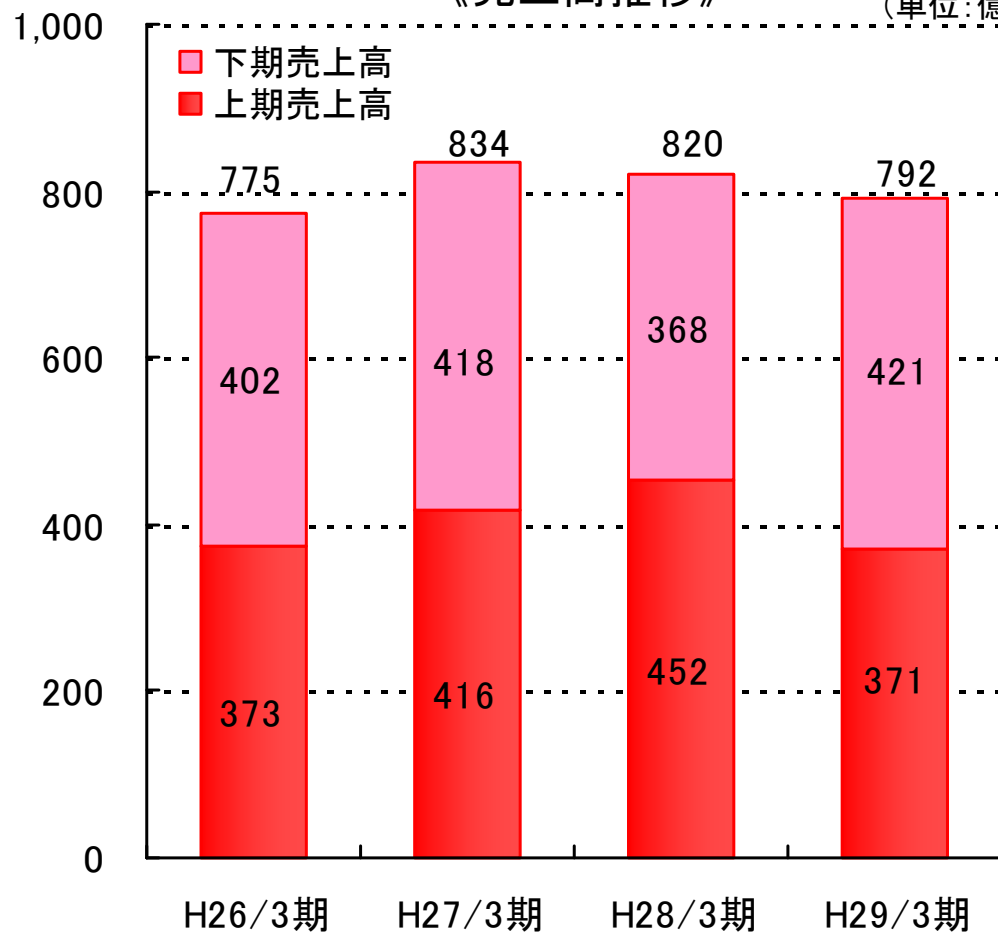
円貨での商品価格が低水準だったため、減収。

・セグメント利益

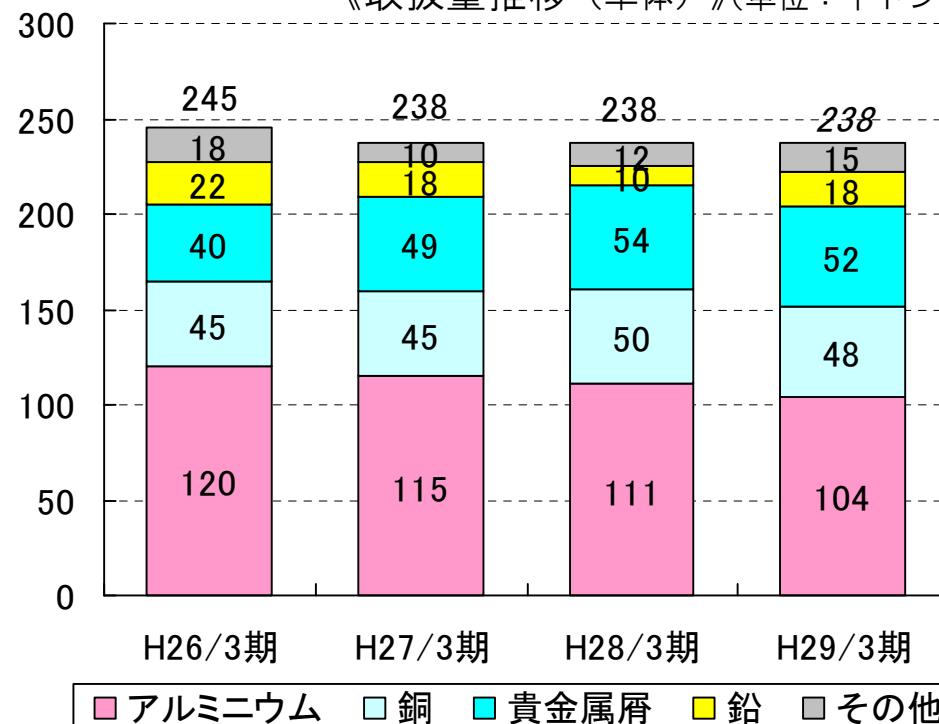
年度後半の価格上昇局面でアルミスクラップや貴金属スクラップの採算が改善し、増益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》(単位：千トン)



食品事業セグメントの状況

(単位：億円)

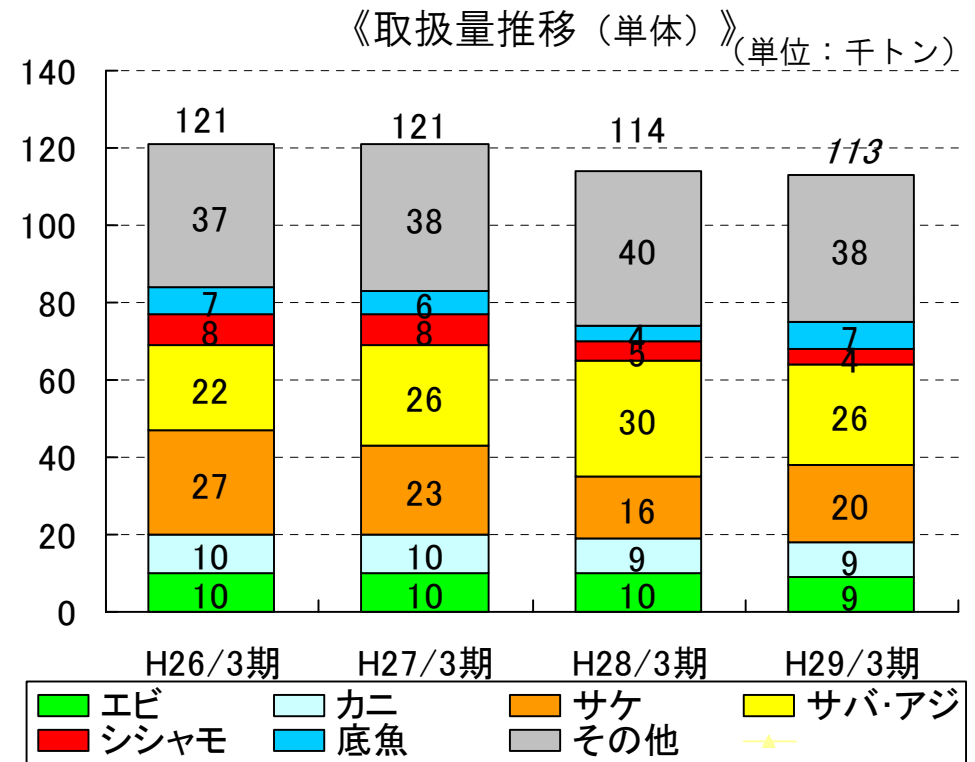
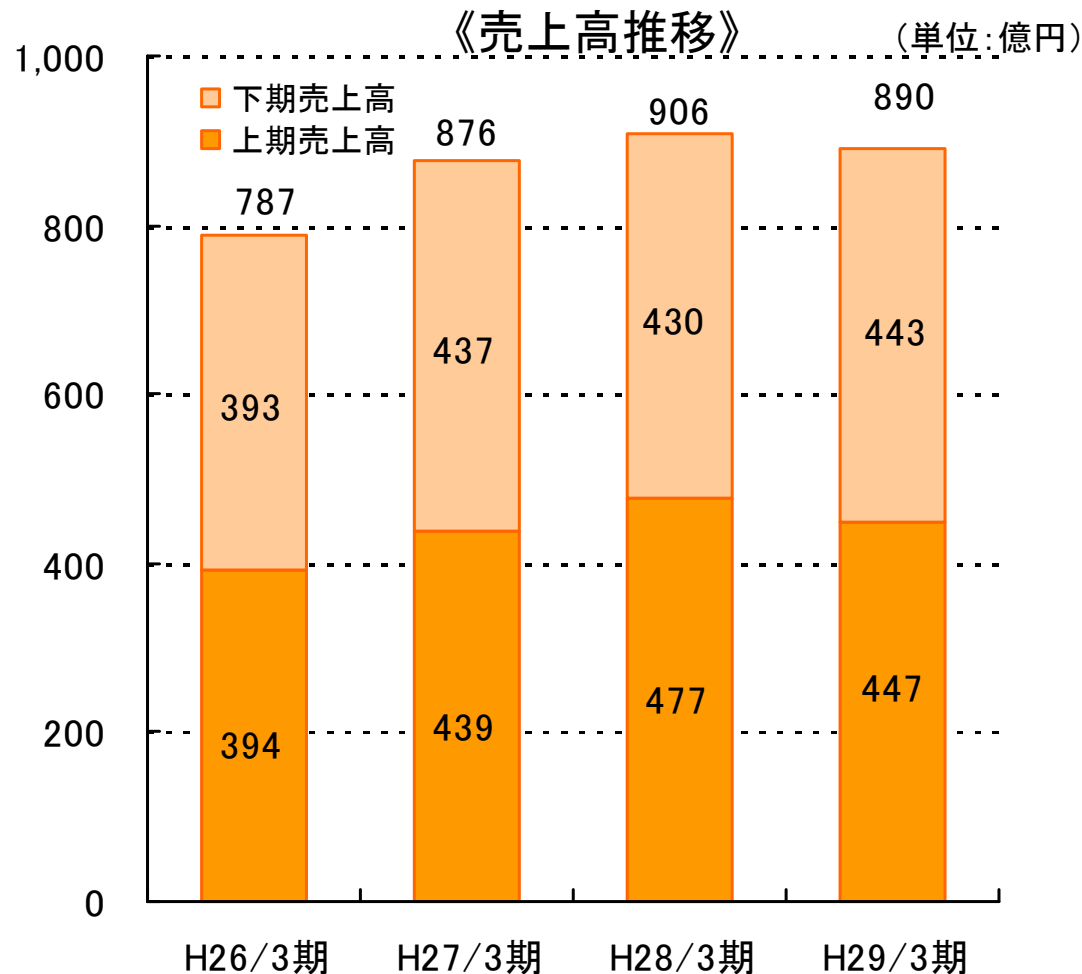
	前 期	当 期	増減比
売 上 高	906	890	△2%
セグメント利益	0	28	—%

・売上高

国内は依然として低調な推移。米国でのエビ需要も低迷し、販売量が減少したことから減収。

・セグメント利益

市況が上昇した商品の利幅向上と、前期赤字となったSeattle Shrimp and Seafood社の黒字化により増益。



石油・化成品事業セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	2,764	2,644	△4%
セグメント利益	19	24	+25%

・売上高

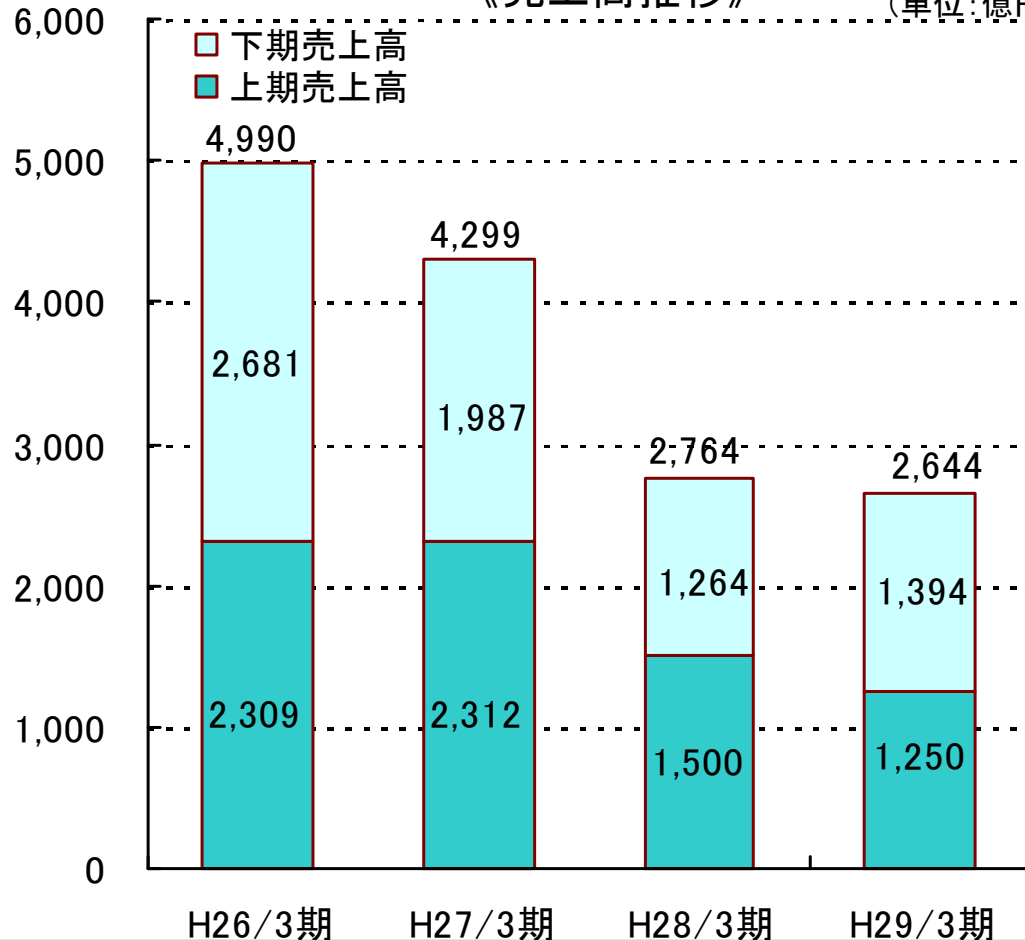
石油製品価格が前期に比べ低水準にあった他、海運市況の低迷による船用石油需要の減少などにより減収。

・セグメント利益

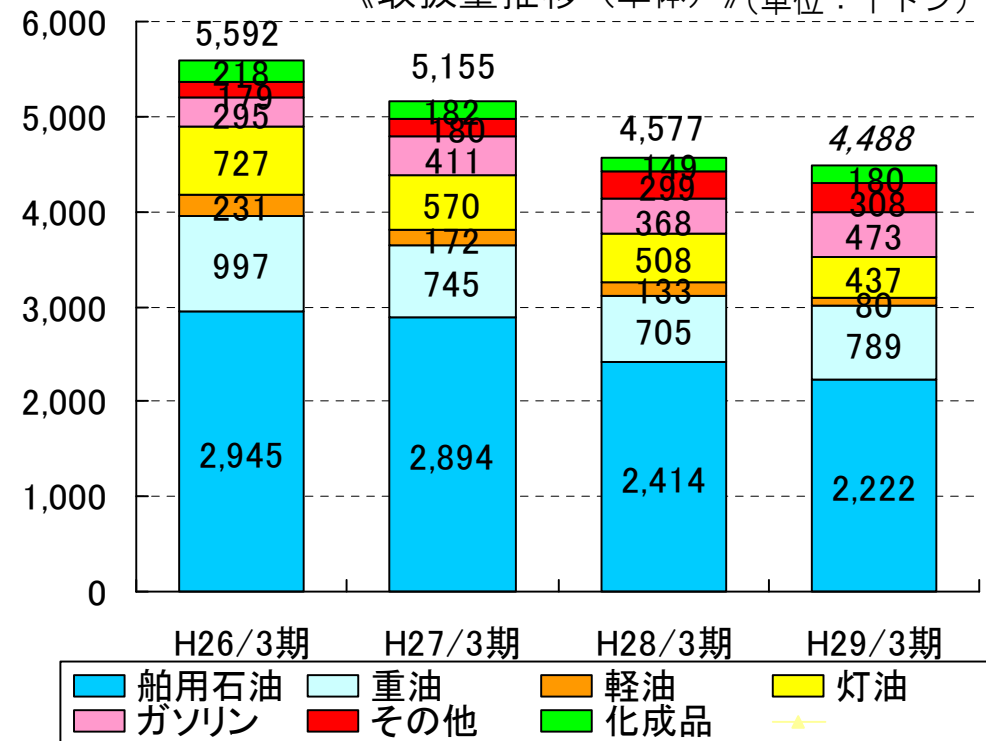
冬場の灯油販売での利益増や、化成品の原料安や円高による輸入雑貨品の採算好転により増益。

《売上高推移》

(単位：億円)



《取扱量推移 (単体)》(単位：千トン)



海外販売子会社セグメントの状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	1,776	1,742	△2%
セグメント利益	△7	1	—%

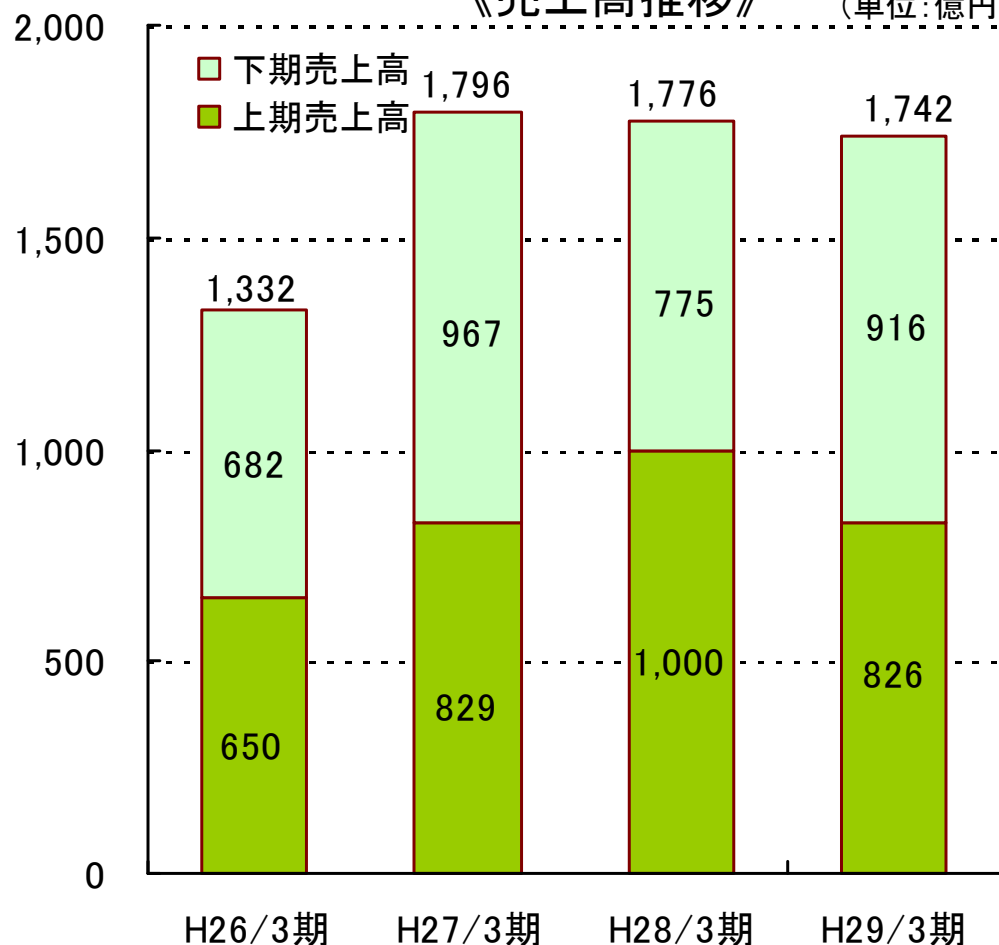
・売上高

米国でのアンチダンピング措置による鉄鋼事業の不振や円高による円貨換算売上の減少などにより減収。

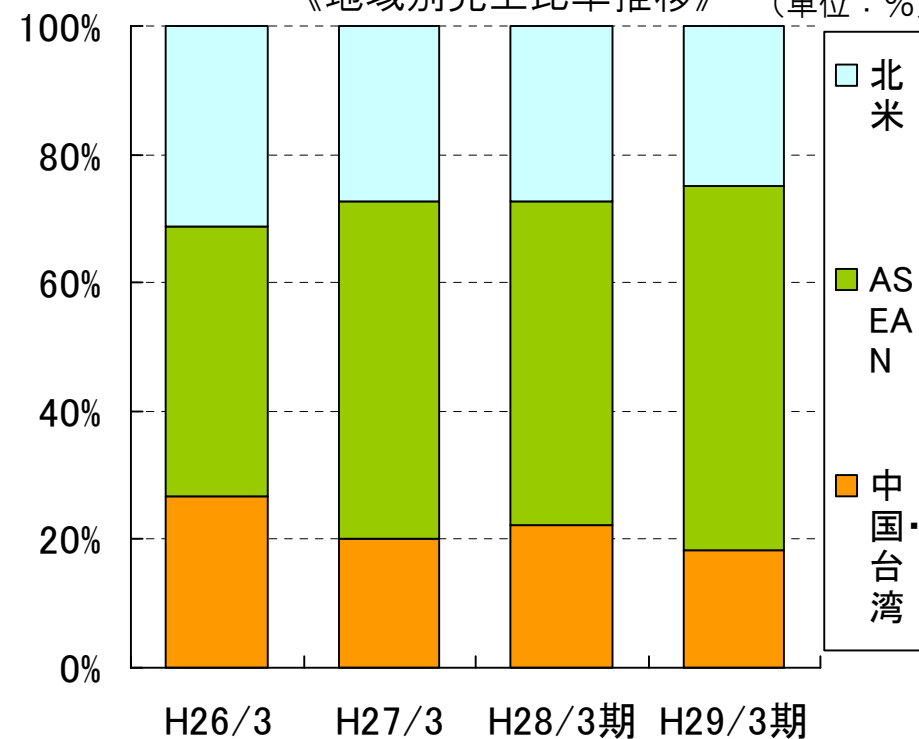
・セグメント利益

シンガポールの非鉄金属事業や、新規に連結したインドネシアの販社の利益が貢献し、増益。

《売上高推移》 (単位：億円)



《地域別売上比率推移》 (単位：%)



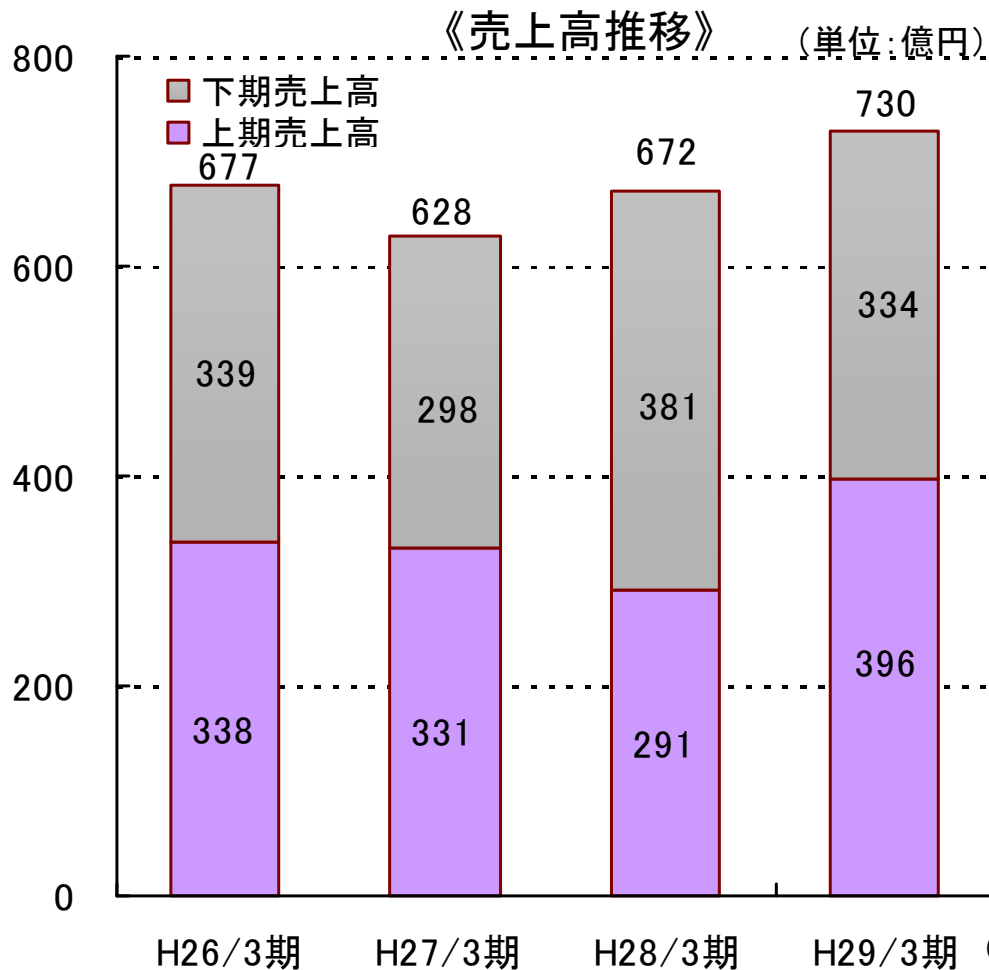
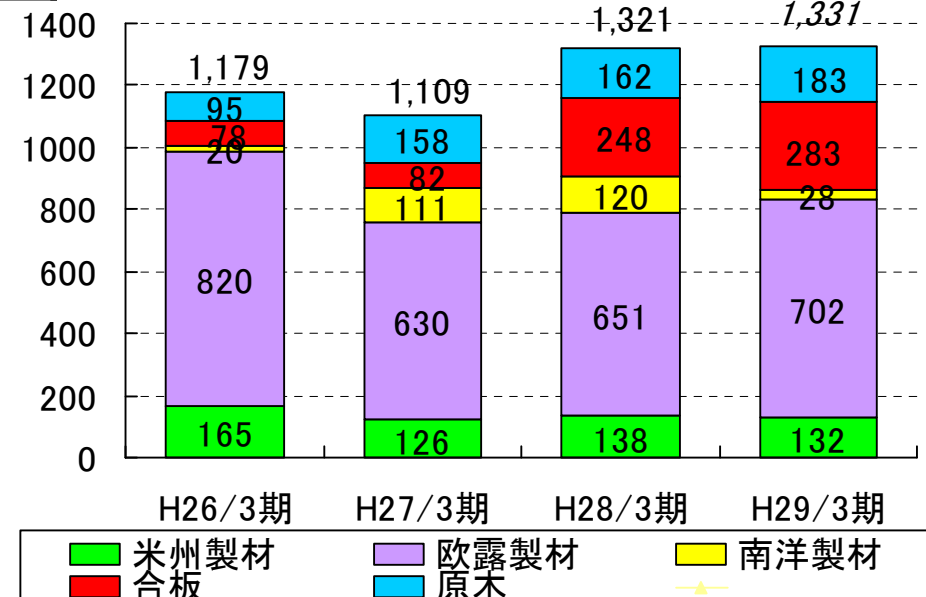
その他の事業の状況

(単位：億円)

	前 期	当 期	増減比
売 上 高	672	730	+9%
セグメント利益	13	15	+11%

機械事業でのレジャー機械の完工収入や木材事業で欧州材の拡販が収益増に寄与した。

《木材取扱量推移（単体）》(単位：千m³)



(EXPOCITY/REDHORSE OSAKA WHEEL)(富士急ハイランド/テンテコマイ)

経常利益の増加により、ROICは向上。

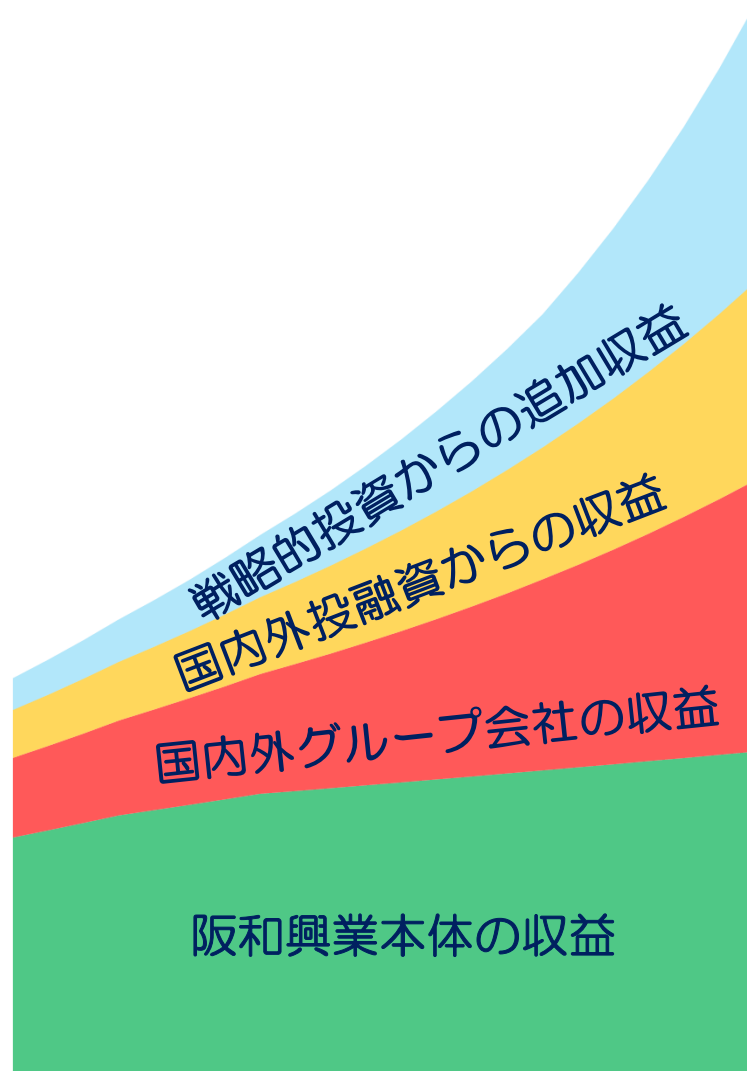
運転資金需要の減少基調が反転し、有利子負債増、ネットDERは横ばい。

新規取引社数は3年間で2,000社の目標に対し、ほぼ1/3を達成。

【定量指標の推移】

		H26/3	H27/3	H28/3	H29/3
ROIC（投下資本EBIT率）	(%)	4.9	4.4	4.5	6.2
ネットDER	(倍)	1.9	1.8	1.4	1.4
新規取引社数	(社)	705	665	705	697
ROE（自己資本純利益率）	(%)	6.6	6.9	17.2	10.1
売上高純利益率	(%)	0.5	0.5	1.7	1.1
総資産回転率	(%)	293.6	279.1	241.7	234.0
財務レバレッジ比率	(%)	475.6	471.5	422.3	397.8

『Sへのこだわり - STEADY, SPEEDY, STRATEGIC』によって、SUSTAINABLEな成長を図っています。



STRATEGIC

戦略的投資からの配当・持分法投資収益
7億円（前期比+ 5億円）

SPEEDY

国内グループ会社由来経常利益
21億円（前期比+ 9億円）

海外グループ会社由来経常利益
10億円（同 +41億円）
（※連結子会社経常利益影響額+非連結子会社配当等）

STEADY

単体経常利益（子会社配当控除後）
190億円（前期比+12%）

当期は金属原料セグメントの昭和メタルが在庫処分で赤字となったが、連結、非連結含めトータルでは増益。

【セグメント別グループ会社の経常利益推移】

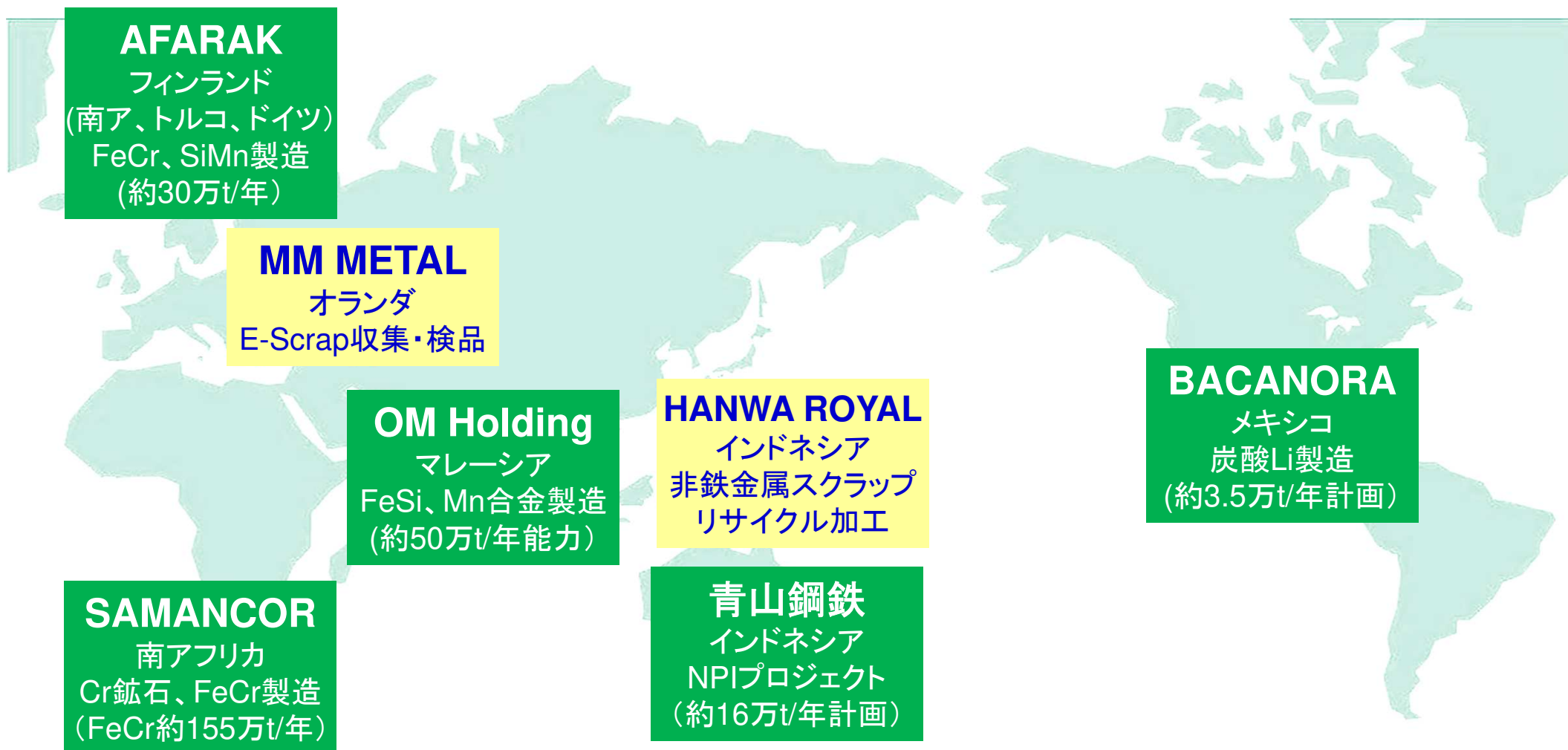
(単位：億円)

	前 期		当 期		増減額	
	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社	連結子会社	非連結子会社
鉄鋼	8.8	△3.2	26.1	4.0	+17.3	+7.2
金属原料	△3.9	△0.2	△6.7	1.6	△2.8	+1.8
非鉄金属	1.5	1.3	2.5	1.4	+1.0	+0.1
食品	△8.7	△0.0	3.7	0.2	+12.4	+0.2
石油・化成品	1.2	1.2	3.2	1.3	+2.0	+0.1
海外販売子会社	△4.4	0.0	2.2	△1.4	+6.6	△1.4
その他	0.6	1.6	2.1	1.4	+1.5	△0.2
合 計	△4.8	0.8	33.3	8.7	+38.1	+7.9

(合計は、各社利益の単純合算)

資源投資は、小規模ながらも、産業界にとって不可欠なニッチなものを対象に実施。

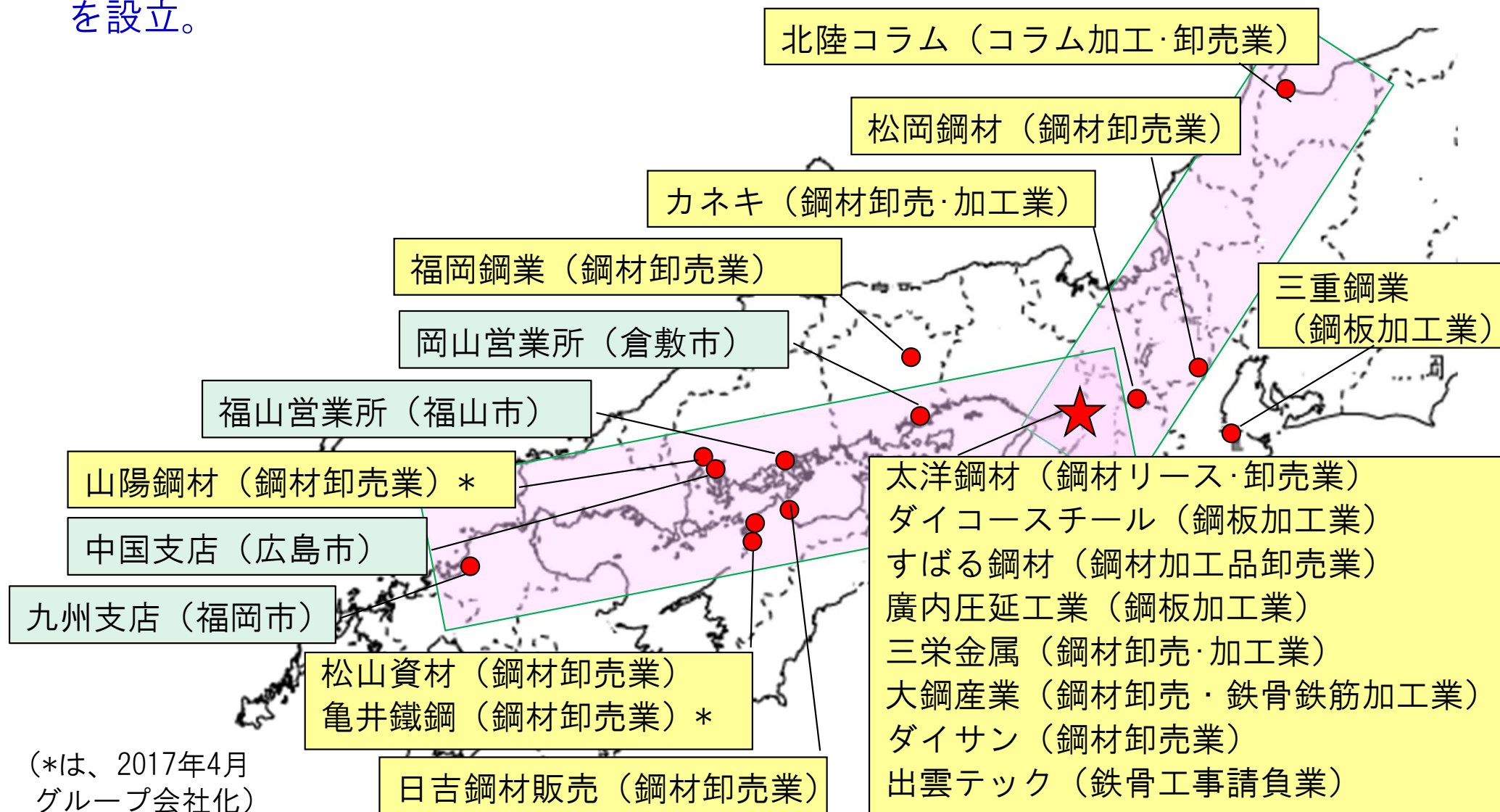
金属スクラップの海外収集ネットワーク構築にも注力。



国内そこか戦略の進捗状況(西日本)

地域需要、小口需要の取り込みを図る「そこか（即納・小口・加工）戦略」を引き続き推進。

当期は四国地区の松山資材をグループ会社化、日吉鋼材と合併で日吉鋼材販売を設立。

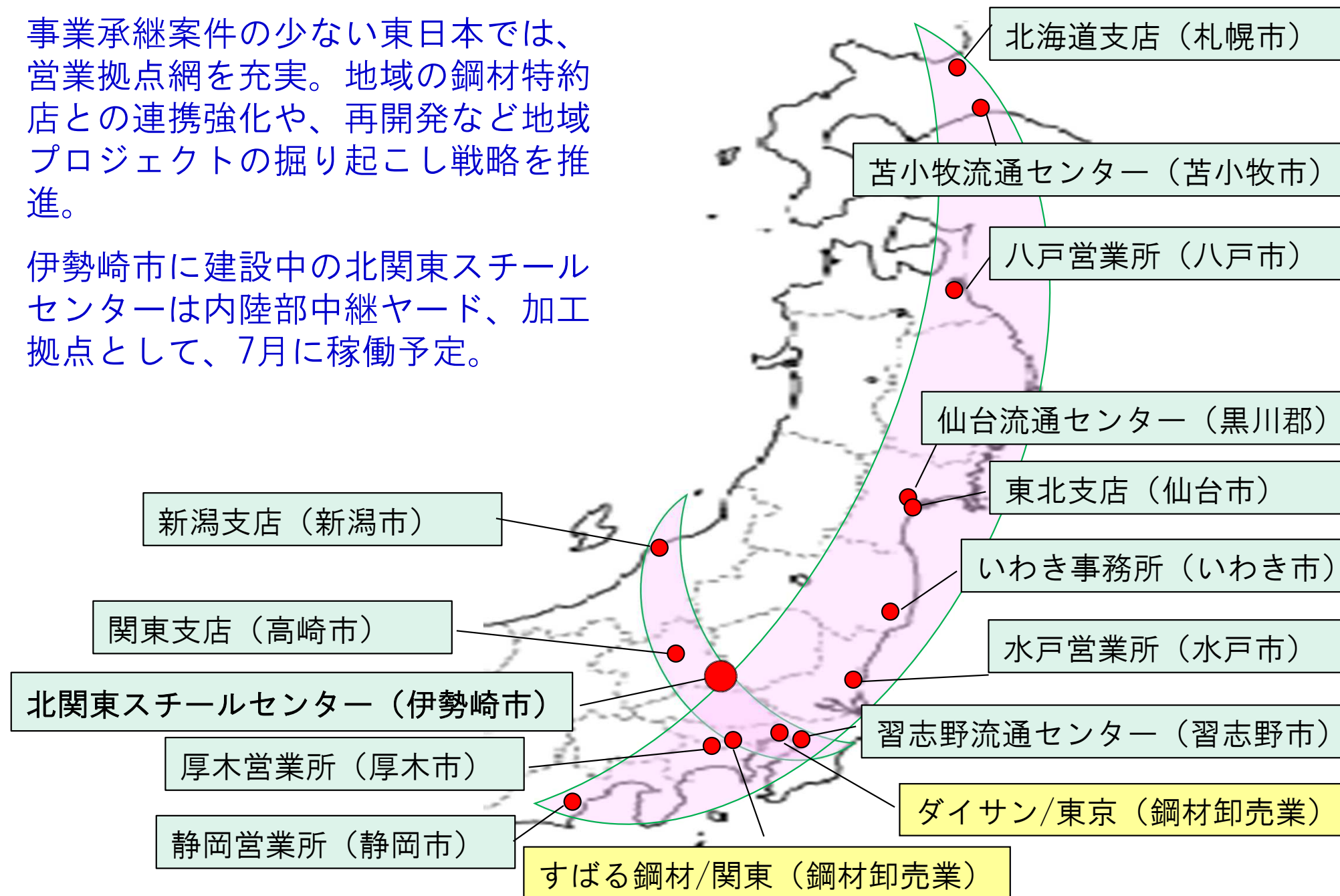


(*は、2017年4月
グループ会社化)

国内そこか戦略の進捗状況(東日本)

事業承継案件の少ない東日本では、営業拠点網を充実。地域の鋼材特約店との連携強化や、再開発など地域プロジェクトの掘り起こし戦略を推進。

伊勢崎市に建設中の北関東スチールセンターは内陸部中継ヤード、加工拠点として、7月に稼働予定。



東南アジアに第二の阪和戦略の進捗状況

将来的なASEAN地域の成長需要を当社のビジネスモデルで取り込んでいくために、現地有力企業とのアライアンスや日系企業との共同進出を拡大している。

【主要なアライアンス先】

タイ

PCM Processing (Thailand) (カラー鋼板製造加工業)
Furukawa Unic (Thailand) (クレーン部品製造業)

マレーシア

Nippon Egalv Steel (メッキ鋼板製造業)
TATT GIAP group (鋼材製造加工、卸売業)
Eversendai Corp. (鉄骨加工、工事施工業)
TATT GIAP Steel Centre (鋼板加工業)

ベトナム

SMC Trading Investment (鋼材卸売業)
Nippon Steel & Sumikin Pipe Vietnam
(鋼管杭製造・販売業)
SMC Toami Limited
(ワイヤーメッシュ製造・販売業)
Sendo Steel Pipe (鋼管製造業)

シンガポール

CosmoSteel Holdings (鋼材卸売業)
HG Metal Manufacturing (鋼材卸売業)

インドネシア

PT. Araya Steel Tube Indonesia (パイプ製造業)
PT. Hanwa Royal Metals (非鉄金属リサイクル業)
PT. Kapurindo Sentana Baja (仮設リース業)

将来に向けて更に利益を積み増すため、当期も事業投資を約112億円実施。早期の収益寄与を目指す。一方で約32億円の資産売却も実行。

【当期の主な事業投資実績】

	総額	主な投資内容
鉄鋼事業	44億円	<ul style="list-style-type: none">・ 北関東スチールセンター建設・ ステンレスパイプ工業子会社化・ HSSインドネシア スリッターライン増設
金属原料・ 非鉄金属事業	44億円	<ul style="list-style-type: none">・ SAMANCOR CHROME追加出資・ MM METAL RECYCLING(三菱マテリアル)合併参加・ 正起金属加工 金属破碎機
海外販売子会社	16億円	<ul style="list-style-type: none">・ 子会社の資本増強など
全社	3億円	<ul style="list-style-type: none">・ 基幹システム構築

ユーザーのために・ユーザーとともに



阪和興業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

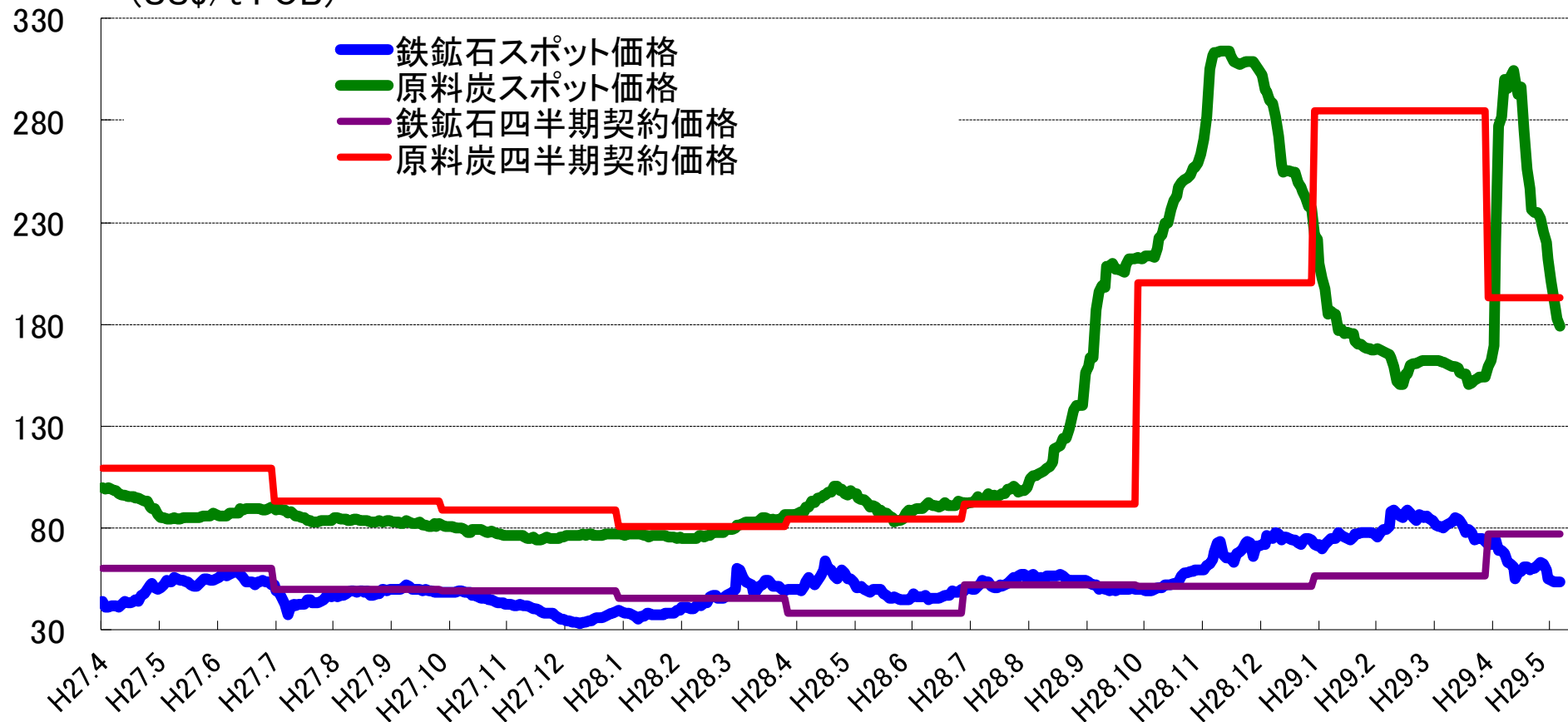
参 考 資 料

鉄鉱石…中国国内鋼材市況の上げ基調に連動して上昇も、足下は軟調。

原料炭…中国炭鉱の操業規制や洪水による物流障害、豪州鉱山での事故などにより急騰、供給環境改善後、価格は下がったが、3月末の豪州へのサイクロン上陸による輸送障害により急騰、その後急落。

【主原料価格の推移】

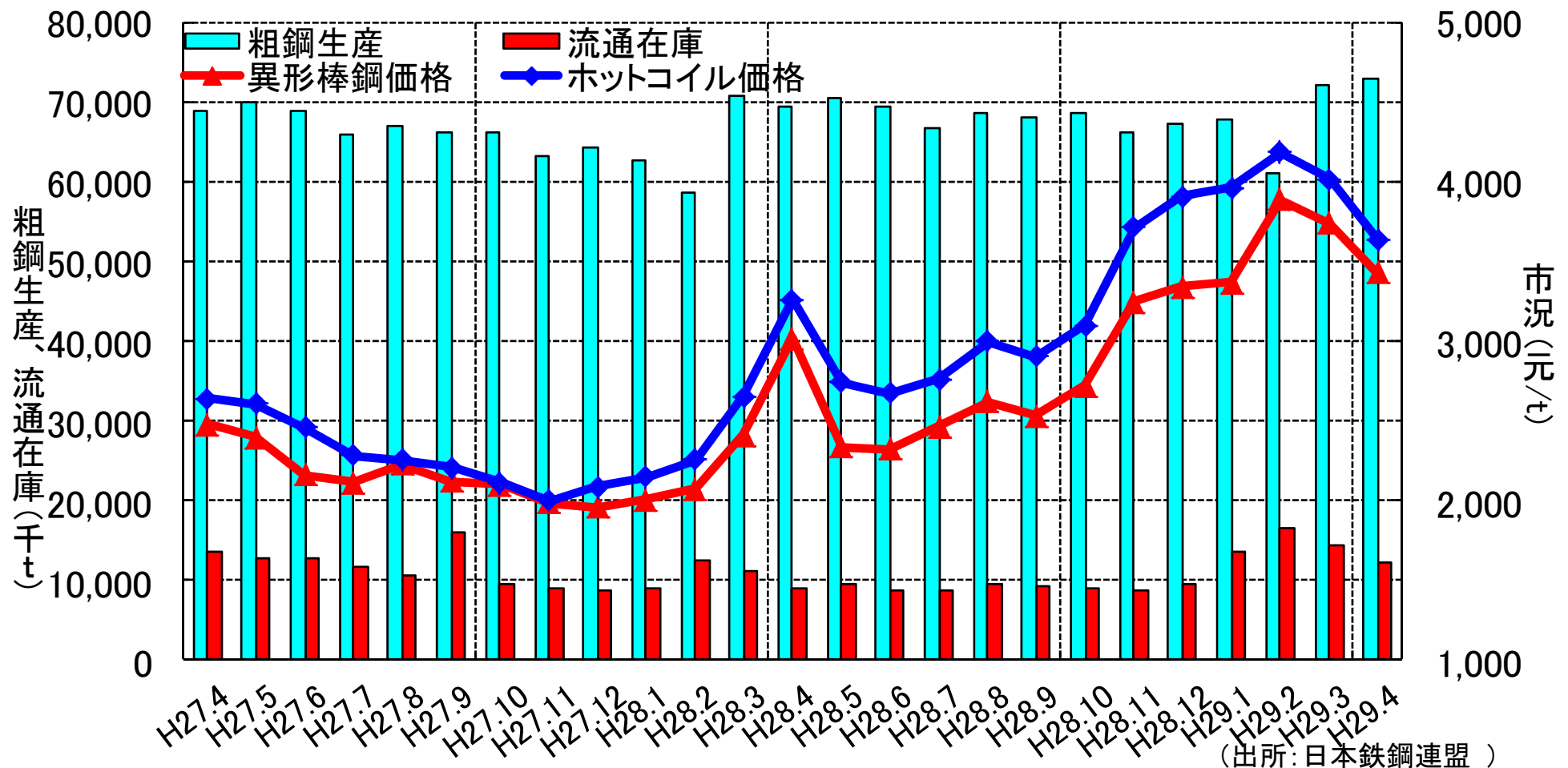
(US\$/t FOB)



鉄鋼需給…内需堅調、先行き期待から生産量は高い水準を維持。足下、需要の変調と在庫消化に遅れ。

市中価格…先物取引主導で価格は上昇傾向にあったが、足下、弱基調に転じている。

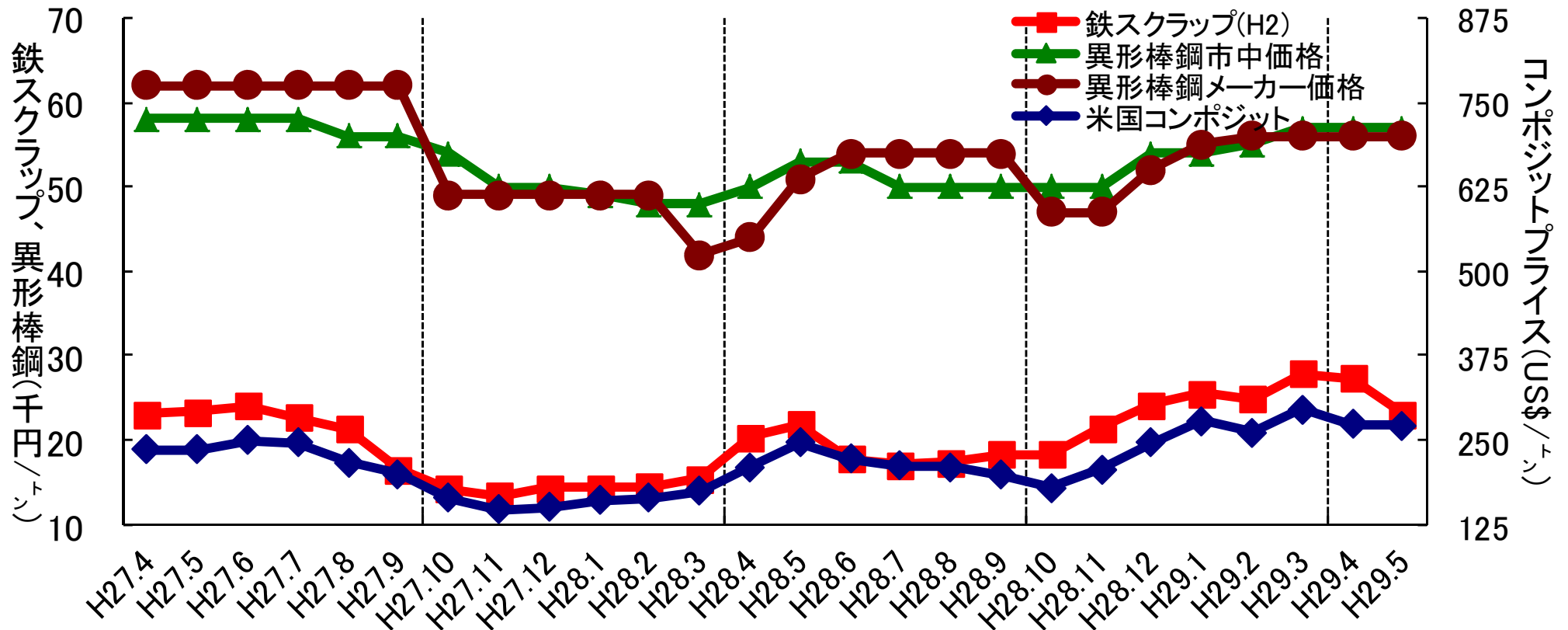
【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】



需給動向…中国からの安値ビレットの流入が減少し、海外のスクラップ需要が増加。足下は中国からのスクラップ輸出などもあり、タイト感薄れる。

市況動向…スクラップの国際市況は堅調に推移。国内市況も輸出との競合から上昇。足下は、鋼材市況の下げ基調から、国際マーケットも軟調。

【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】

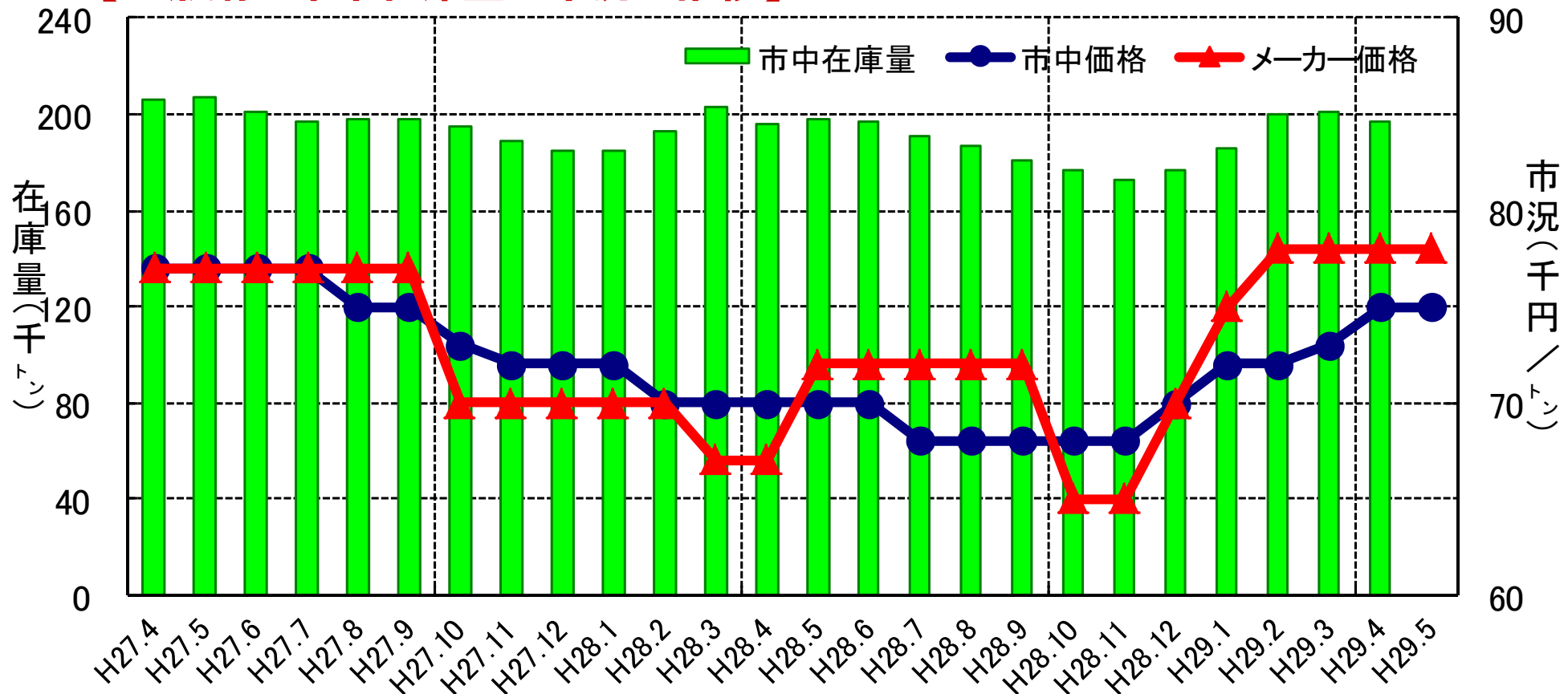


(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

需給動向…建設物件の増加や在庫の減少、メーカー引受制限などから、タイト感があつたが、荷動きが回復せず、在庫も増加に転じる。

市況動向…年央からのメーカー出値の上昇により、スポット価格も徐々に上昇。足下は店売市場の値上げ一服。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

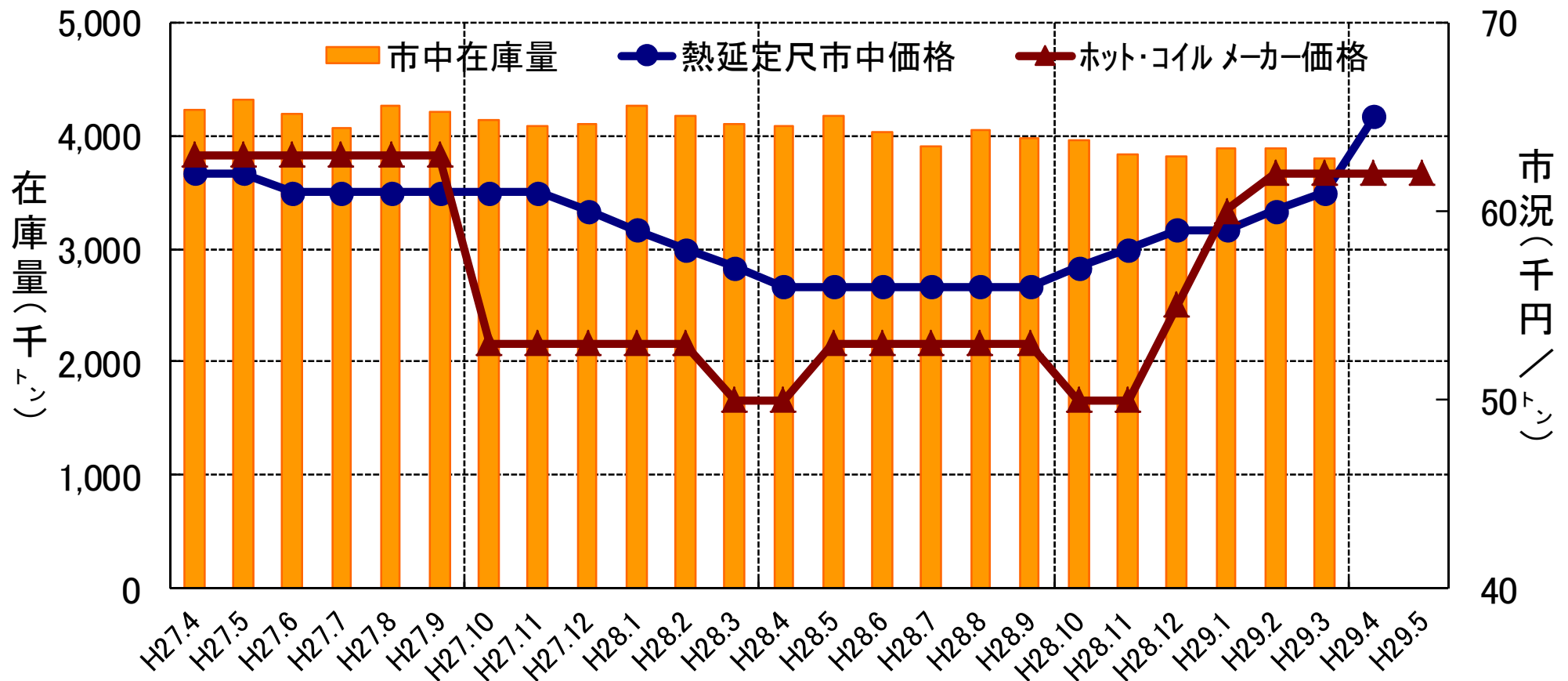


(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

需給動向…国内需要は大きな伸びはないものの、堅調推移。工場停止や炉修などにより、一部品種でタイト化。

市況動向…原料価格の上昇を受けて、鉄鋼メーカーが値上げ唱え。店売市場への浸透は半ば。

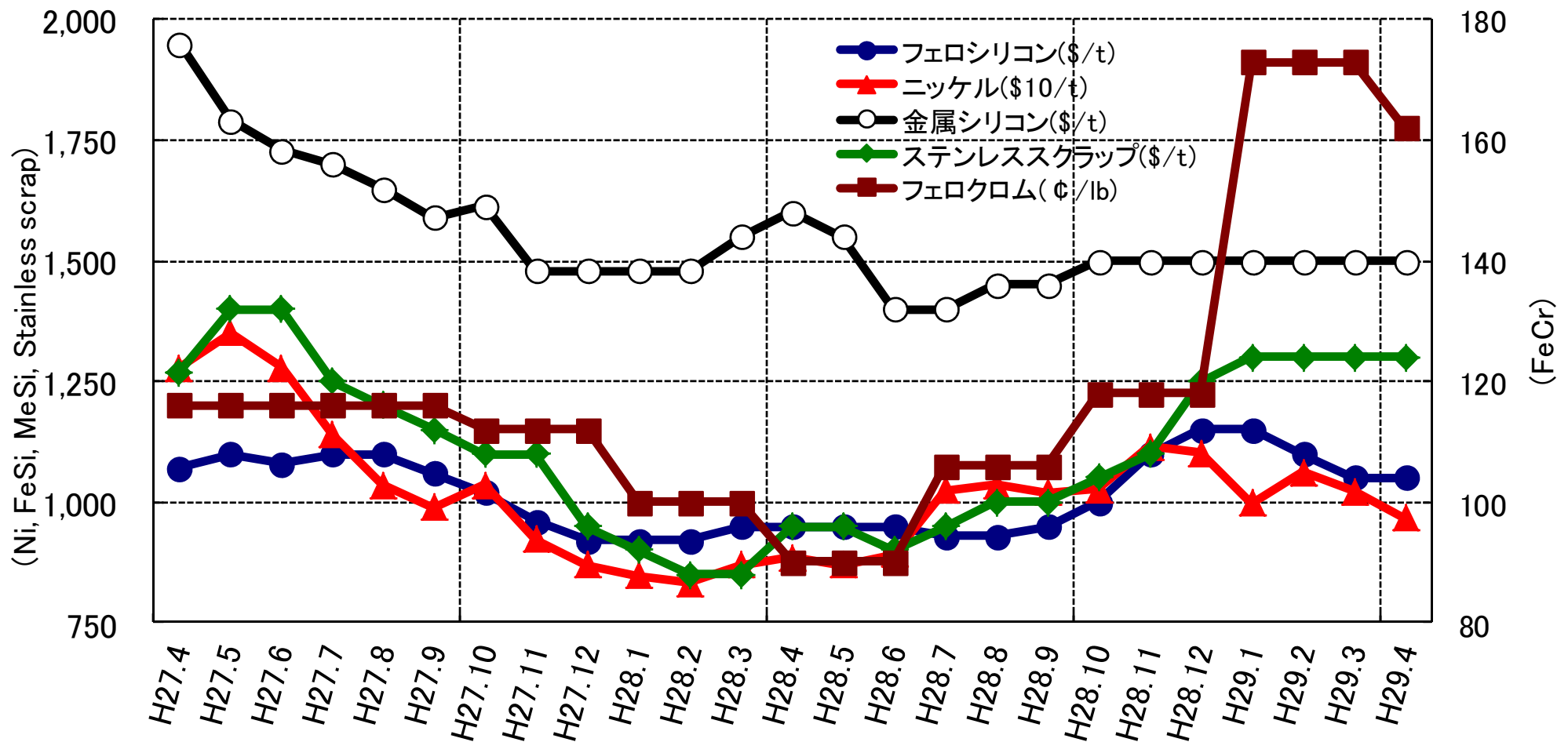
【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



(出所:在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

金属原料市況の推移

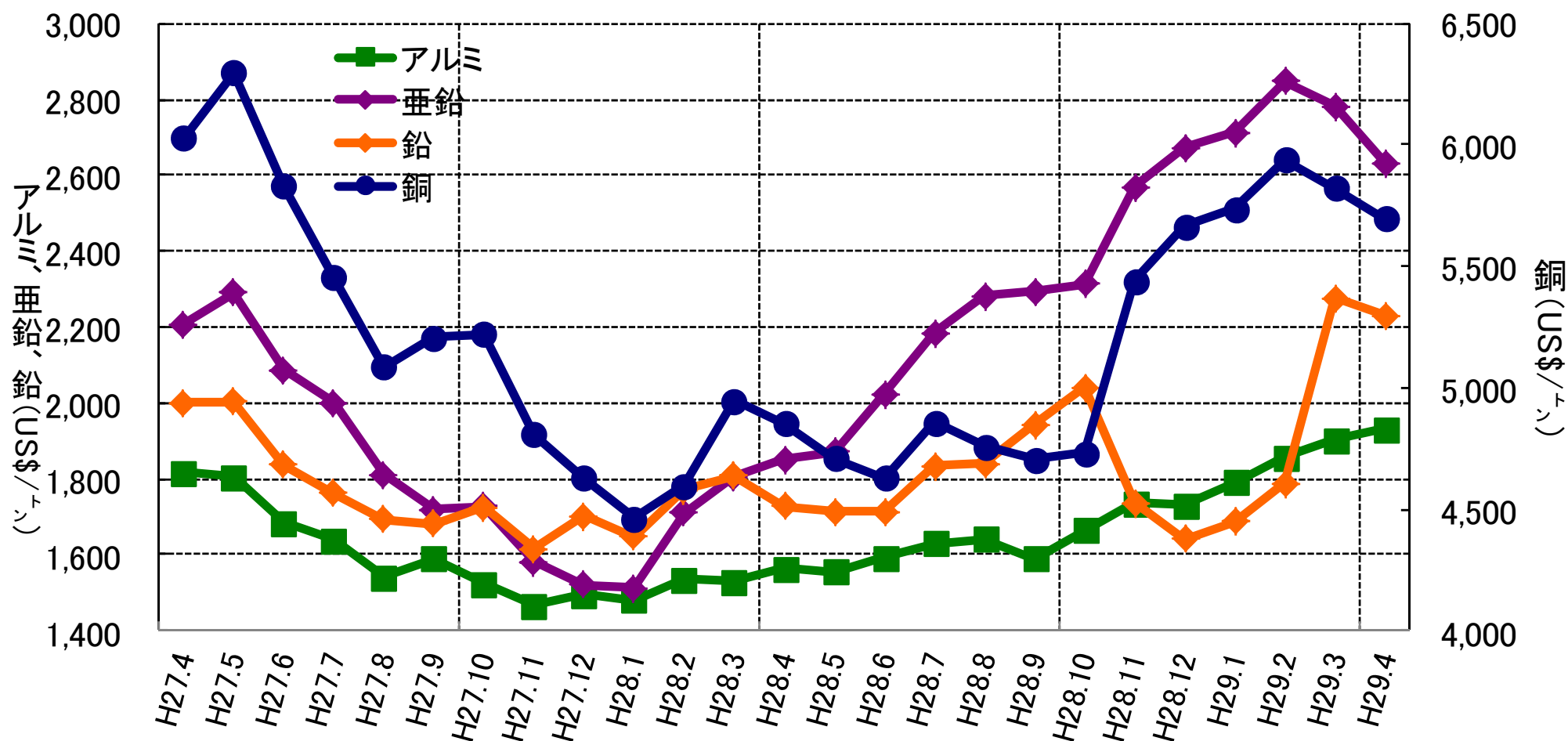
ニッケル…需要減少や在庫の高止まりで停滞していたが、フィリピンの鉱山規制をきっかけに上昇。足下、インドネシアの輸出再開で軟調に。
合金鉄…中国や南アフリカでの事業再編に加え、在庫の減少により、下期に価格上昇。足下は、調整安に転じている。



非鉄金属市況の推移

アルミ…LME価格は前半横ばい、下期から在庫の減少やトランプ政権誕生などにより徐々に上昇に転じた。

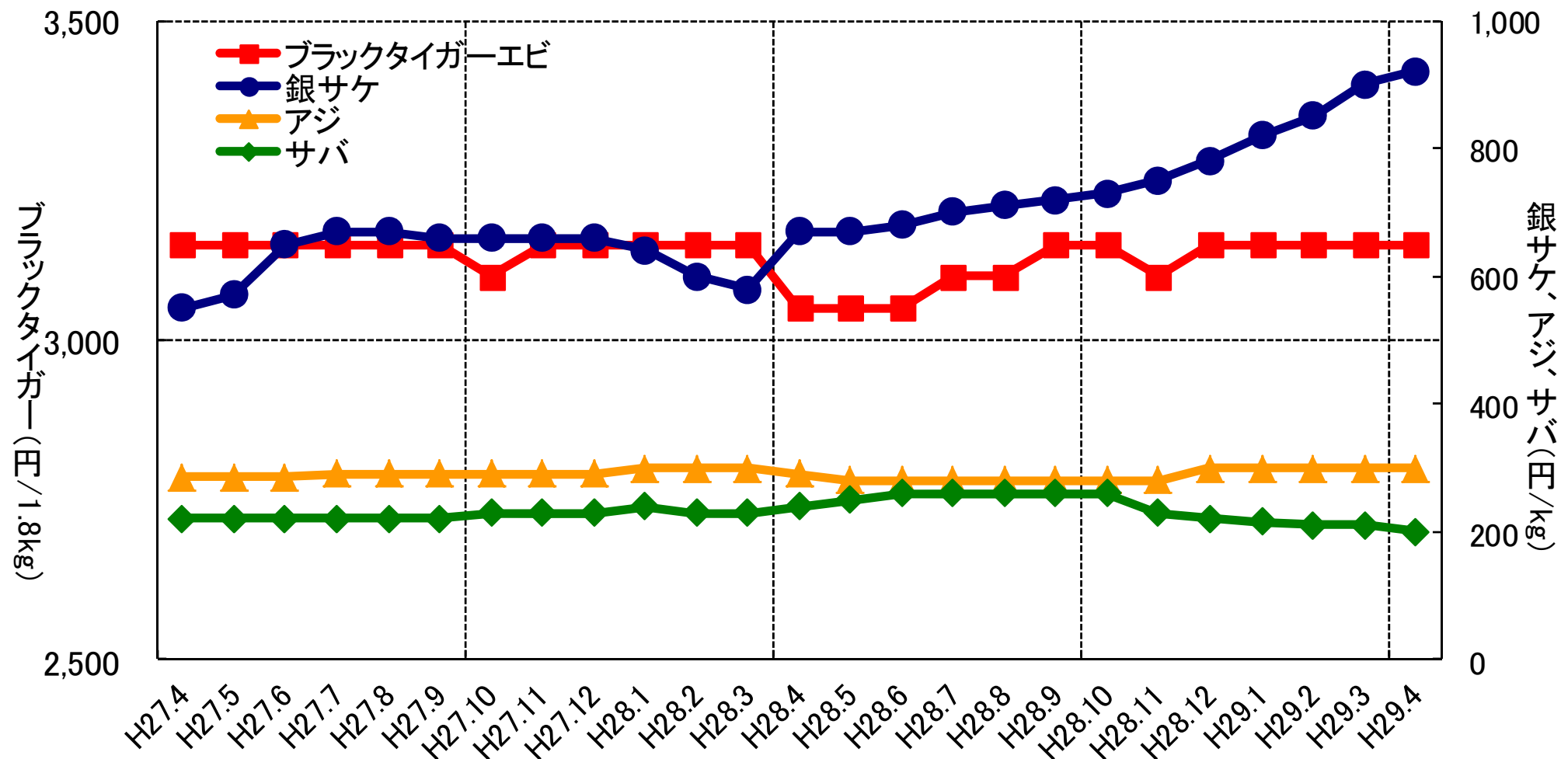
銅…期前半は供給過剰からの在庫過多が嫌気され、停滞したが、トランプ政権誕生後、その政策期待から価格上昇。足下は期待感がやや後退。



輸入水産物市況の推移

エビ…東南アジアでの水揚げが低調で、現地相場は高値推移。国内市況も在庫低水準で強含みで推移。

サケ…チリの3月の藻発生による養殖サケ被害などによる在庫薄のため、価格上昇。



原油・石油製品市況の推移

原油…当期は徐々に切り上がり、BREXITで一瞬下げるも、9月のOPEC臨時総会での減産合意により、再上昇。

製品…原油価格の変動に連動した動きだが、需要低調で市況転嫁が困難な状況継続。

